一〇　中国外交関係雑纂（在北京ソ連邦大使館構内捜索事件その他）

705　昭和2年1月2日　在漢口高尾総領事より幣原外務大臣宛（電報）

日本の北方軍閥援助情報に対する陳友仁の照会について

漢口　1月2日後発
本省　1月3日前着

第二号

革命軍ノ対日感情ハ今日迄ノ処各方面ヲ通シ兎ニ角良好ニシテ又累次電報ノ陳友仁佐分利ノ会見談ヨリ察スルモ彼等ハ我方ノ公平ナル態度ヲ理解シ日本トノ間ニ親善ナル関係ヲ保持セントスルモノノ如クナル処十二月三十一日佐分利出発ニ際シ陳ハ最近得タル情報ニ依レハ日本ハ大倉組ノ手ニ依リ京津電車建設借款二千万円及膠済鉄道改良借款五百万円ヲ北方政府ニ調達スル意向有リトノ事ナルカ目下ノ形勢ニ於テ若シ此ノ計画実現セラルル時ハ名義ハ兎ニ角実際ニ於テ日本ハ北方軍閥ヲ援助スル事トナリ革命軍トシテハ甚タ喜ハサル処ナルカ果シテ斯ノ如キ計画有リヤ一応本官ヲ通シ東京政府ニ確メラレ度旨ヲ依頼セル趣ナリ右ト同様ノ事ハ近来本官ヲ来訪セル二三ノ革命軍要人ヨリモ質問ヲ受ケタル処ニテ我方ノ真意ニ付昨今軍ノ幹部等ニ於テ疑惑ヲ抱キ始メタル事ハ右陳ノ申入ニ依ルモ明ナリ

就テハ本件事実ノ有無若シ事実ナリトセハ如何ナル程度ニ交渉進捗シ居ルヤ又如何説明シ然ルヘキヤ其ノ他本官ノ心得フヘキ事項等何分ノ儀御回電ヲ請フ

在支公使、上海ヘ転電シ天津、済南、青島ヘ暗送セリ

706　昭和2年1月9日　在上海矢田総領事より幣原外務大臣宛（電報）

国民政府右派と提携の機運到来について

上海　1月9日後発
本省　1月9日後着

第一六号

客年十二月往電第三八九号[1]（編注）末尾ニ関シ

当時革命軍戦捷ノ直後ニシテ未タ内部ニ分解作用ノ起ル時機ニアラサリシト当地ノ右傾派ニ対シテハ我陸軍側ニテ既ニ手ヲ着ケ始メタル模様ナリシモ此種問題ハ取扱極メテ「デリケート」ニシテ従来ノ実験ニ顧ミ聊カ危惧ノ念無キニアラサルノミナラス右派ノ実勢力ニ付十分ノ見据付カスサリトテ右運動ヲ阻止若ハ「ディスカレージ」スル丈ケノ材料モ無カリシヲ以テ意見上申ヲ差控ヘタル次第ナリ然ルニ爾来革命政府ハ江西ノ創痍未タ癒エス財政モ亦豊富ナラサルモノト見エ軍事ハ暫ク中止ノ状態トナリ行政財政ノ施設ニ着手シタルヲ以テ自然人民ノ失望怨嗟ヲ招キ内部ノ暗闘崩シ始メタルモノノ如ク最近漢口ノ英租界占領事件ハ如何ニ発展スヘキカハ予想シ難キモ現下四囲ノ状況ヨリ判断スルニ或ハ共産派ヲ中心トスル革命軍ノ勢力ノ絶頂ハ既ニ経過シ局面転回ノ時機ニ入リタルカ如ク感知セラル即チ若シ彼等ニシテ新政綱ヲ治メ宣伝材料ヲ得テ部内結束ヲ図ラサルニ於テハ暗流表面ニ表ハレ来ル日遠キニアラサルカ如シ

如上ノ状況ナレハ右傾（当地老人組ノミナラス上流穏健派ヲ一括シテ呼フ）ト接近シ之ト或種ノ了解ヲ造リ我方援助ノ下ニ革命軍中ヨリ共産派ト赤露トヲ一蔽シテ「エリミネート」シ得ヘキ機運ハ近ツキツツアルモノト観察セラル従テ前掲陸軍側ノ運動モ敢テ不可ナカルヘシ尤モ本件遂行ニ慎重ノ用意ヲ要スルコト勿論ニシテ馮玉祥、張作霖ハ勿論張宗昌、孫伝芳、蔣介石等ハ各相互ニ連絡ヲ図リ其ノ関係極メテ複雑多岐ナレハ我当局ニ於テモ各方面ニ充分ノ打合セヲ遂ケ置ク必要アリト存ス然ラスシテ出先有志ノ奔走ニ委セ各人各別ノ計画ヲ以テ行動セシムル時ハ意外ノ失態ヲ生シ我方全体ノ立場ヲシテ脱スヘカラサル「ディレンマ」ニ陥ラシメラルル虞アリト憂慮セラル

岩松中佐ヨリ近々右派ノ代表トシテ張継日本行ニ決シタル由報告アリタルニ付一言申進ス

北京、漢口ニ転電セリ

編注　『日本外交文書　大正十五年第二冊上巻』三九〇文書参照

707　昭和2年1月23日　在英国松井大使より幣原外務大臣宛（電報）

対中国融和政策は変らずとの英国外務省の声明について

倫敦　発
本省　1月23日前着

第二二号

二十一日支那問題ニ関スル閣議ノ結果英外務省ハ大要左ノ声明ヲ発シタリ

支那時局ニ関連スル陸海軍ノ配備ハ予防的措置ニシテ其唯一ノ目的ハ必要ノ際英国民ノ生命保護ノ義務ヲ遂行セントスルニ在リ右ハ既ニ前期議会ニ於テ首相及外相ノ約束セシ処ニシテ従テ右ニ関スル「センセーショナル」ナル言説ハ之ヲ信ス可ラス

対支政策覚書ニ宣明セル政府ノ融和的態度ハ何等ノ変更ナキノミナラス目下漢口及北京ニ於テ進捗シツツアル交渉ニシテ成功セハ政府カ其対支関係ヲ公正且相互ニ有利ナル基礎ニ置カンカ為ニ提議セル譲歩ノ実現ニ与テ力アルヘキ是等ノ交渉ニ凡テノ係争問題カ友好的ニ解決セラレンコトハ政府ノ希望スル所ナリ

米、仏ヘ郵送

708 昭和2年1月27日 在米国松平大使より幣原外務大臣宛（電報）

中国と関税および法権問題につき商議を開始する用意ある旨の米国務長官声明について

ワシントン　発　本省　1月27日後着

第三〇号

本声明書ハ先ツ米国カ支那国民ノ統一独立及繁栄ヲ望ミ出来得ル限リ速ニ関税上ノ制限並ニ治外法権ヲ撤廃センコトヲ希望シ来レル事ヲ述ヘタル後米国ハ華府会議以来常ニ支那ノ如何ナル政府ヲ迎フトモ亦支那ヲ代表シ得ヘキ如何ナル代表者トノ間ニモ華府条約付加税ノ実施ノミナラス「タリフ、コントロール」ノ撤廃関税自主権ノ回復ニ付商議ヲ開始スヘキ用意ヲ有シタリ尤モ米国ハ最恵国無差別待遇並ニ支那ニ於ケル通商上ノ門戸開放機会均等主義ノ維持及支那カ米国市民ニ対シ一切ノ保護ヲ与フヘキ事ヲ期待スルモノナリ亦米国ハ新タニ条約ノ締結ヲ要セスシテ即時実施シ得ヘキ法権委員会ノ勧告ヲ実行スルノ用意アルト共ニ支那カ米国市民ニ対シ法律上ノ保護ヲ与ヘ得ルニ至ラハ直チニ治外法権ノ撤廃ニ付商議ヲ開始スルニ吝ナラスト述ヘ次ニ一九二五年八月六日華府条約ノ批准交換亦同年六月二十六日不対等条約改訂ニ関スル支那政府ノ同文通牒並ニ右ニ対スル九月四日列国同文回答発送等ノ場合ニ於テ常ニ米国側カ支那ノ要望ニ副フヘク尽力セル次第ヲ述ヘタル後関税会議ノ経過ヲ叙シ米国全権ハ各国代表ト共ニ会議ノ成功ニ努メ将ニ列国側ニモ支那側ニモ満足ナル結果ヲ得ントセルニ当リ一九二六年四月支那政府倒壊シ其後各国代表ハ七月三日支那代表カ各国代表ト商議ヲ再開スルニ至リシ次第会議ノ事業ヲ続行スヘキ旨ヲ決議セリト述ヘ最後ニ米国政府ハ当時ニ於テモ今日ニ於テモ関税及法権問題ニ付商議ヲ継続シ又ハ米国単独ニ商議ヲ開始スルノ用意アリ唯一ノ問題ハ何人ト交渉スルヤニ存スル次第ニシテ若シ支那ニシテ「オウソリチース」又ハ国民ヲ代表スル代表者ヲ任命スルニ一致セハ吾人ハ此種条約ヲ商議スルノ準備アリ但シ米国上院ノ批准ヲ経居ル現存諸条約ハ大統領之ヲ廃棄シ不得支那ヲ代表スル何人カトノ商議ニ依リ成立シ上院ノ批准ヲ経得ヘキ新条約ニ依リ廃棄セラレサル可カラス一九一二年支那新政府樹立以後各派ノ争闘ニ当リ米国ハ常ニ厳正中立ノ態度維持ニ極力努メ来レリ米国政府ハ支那国民及其指導者カ米人ニ責任ナキ争闘ニ際シ其生命財産ヲ保護セラルヘキ権利ヲ有スル事ヲ承認スヘキヲ期待ス若シ支那官憲ニシテ此種保護ヲ与ヘサル場合ニハ之ヲ保護スル事米国ノ根本義務ニシテ目下米国軍艦ノ支那ニ在ルモ亦之カ為ナリ米国政府ハ最モ「リベラル」ナル精神ニ於テ支那ニ対セン事ヲ欲ス米国ハ支那ニ「コンセッション」ヲ有セス又未タ曾テ支那ニ対シ帝国主義的態度ヲ示シタル事ナシ但シ米国ハ米国市民カ支那ニ居住シ正当ナル職業ニ従事スルニ付特権独占又ハ勢力範囲等ノコトナク他国市民ト均等ノ機会ヲ与ヘラレンコトヲ欲スト述ヘ居レリ

編注　本声明全文は省略、一月二十七日付在米国松平大使より幣原外務大臣宛公第五九号により送付された（二月十五日接受）

709 昭和2年1月31日 幣原外務大臣より在米国松平大使宛（電報）

米国務長官の対中国政策の声明は我方の政策と一致し中国時局の緩和に貢献との見解伝達方について

本省　1月31日後発

第五二号

貴電（七〇八文書）第三〇号米国国務卿ノ対支政策声明ニ対スル本邦新聞紙ノ論調ハ大体別電第五三号ノ通ナル処同声明ハ啻ニ我方従来ノ政策ト一致スルノミナラス英国ノ対支新政策トモ相呼応スルモノアリ

穏健着実且時宜ニ適シタル声明ニシテ列国今後ノ対支方針協調上良好ナル結果ヲ齎スヘシト思考ス今後共日米間ニ於テ支那問題ニ関シ腹蔵ナキ意見ヲ交換シ一致シテ健実ノ態度ニ出ツルヲ得ハ支那ノ時局ヲ緩和スルニ貢献スル所尠カラサルヘキヤ本大臣ノ信シテ疑ハサル所ナリ

目下議会関係多忙ニシテ右国務卿ノ声明ニ対スル本大臣ノ所懐未タ在本邦米国大使ニ表明ノ機ヲ得サルニ付不取敢右本大臣ノ個人的伝言トシテ国務長官ニ転達方然ルヘク御取計アリ度シ

尚支那問題ニ関シ日米協調ノ為貴官最近ノ努力ヲ多トス

将又貴電第三二号支那南北両派ト会同、時局収拾ノ件殊ニ上海中立問題ニ関スル国務長官ノ意向ハ事極メテ重大且機微ナルニ鑑ミ慎重考慮スルコトト致度ク不取敢在支公使並ニ関係総領事ノ意見徴収中ニ付右ニ御含ミ置キアリ度シ

710　昭和2年2月4日　在漢口高尾総領事より幣原外務大臣宛（電報）

米国の南北会議提案などに対する陳友仁の談話について

漢口　2月4日後発

本省　2月5日後着

第九一号

貴[1]電合第五八号其他本件来電ニ関シ本官二月四日陳友仁ヲ訪問ノ節余談トシテ米国国務卿声明ニ関スル陳ノ感想ヲ叩キタル処陳ハ右ハ過日米国総領事ヨリモ質問アリシモ未タ研究ノ時間モナシト一先ツ答ヘ置キタリト告ケ多クヲ語ラサリシモ同声明書中ノ支那各官憲又ハ全国民ヲ代表スル「デレゲート」トノ交渉云々ノ点ニ付テハ本官ノ質問ニ対シ陳ハ斯ノ如キ提案ハ今日ノ国民政府ノ承認シ能ハサル処ナリ仮令右ノ交渉カ非公式ノ性質ノモノナルニセヨ北京政府ノ代表者カ列席スヘキ限ニ非ストテ頭ヲ左右ニ打振レリ依テ本官ハ更ニ進テ伝フル処ニ依レハ米国側ニ於テハ右ノ趣旨ヲ更ニ具体化シ上海中立問題及租界「ステータス」等ニ関シ或ハ何等非公式会議ヲ開カントスル意向ナキニ非ス右ハ勿論国民政府ノ上海共同租界ニ対スル今後ノ態度ヲ気遣ハルル為メ主トシテ同地居住米国人ノ保護ヲ全フセントスル目的ニ出ツルモノト考ヘラレ別ニ他意アル次第ニハ非サル可キモ若シ右様計画実現スルモノトセハ国民政府トシテハ如何考フルヤト尋ネタルニ陳ハ自分等ニ於テ決シテ同

居留地ヲ強力奪取スルカ如キ考ヘナキ事ハ貴官ニ於テハ疾ク御承知ノ通リニシテ又右ノ趣旨ハ英国労働党ニ宛テタル「メッセージ」中ニモ明カニシタリ然ルニ拘ハラス米国ニ限ラス何国ト雖斯ノ如キ提議ヲナスモノアラハ国民政府ハ之ヲ内政干渉ノ挙ト見做スヲ得ヘキカト云ヘルニ依リ本官ハ国民政府ノ右ノ方針ハ本官ヲ通シ我政府ニ於テハ良ク了解シ居ル事ト存スルモ此際各国相互ノ間ニ無用ノ誤解ト不安ヲ避クル為過日話サレタル通リ

国[2]民政府ニ於テ更ニ上海ニ於ケル外国人ノ生命財産ノ安全ヲ保障スル声明ヲ発シテハ如何ニ日米両国ハ我外務大臣ノ演説及米国国務卿ノ声明書ニテ見ラルル通リ対支政策ハ根本ニ於テ合致シ居リ之ハ国民政府ニ於テ大ニ考慮スヘキ事実ナル処今回米国側ニ若シ右ノ如キ意向アリトセハ其ハ当方面ノ事情及国民政府ノ真意徹底セサルニ出ツルモノト考ヘラルルニ付此点熟考ヲ要ス可シト云ヘルニ陳ハ更ニ考慮ノ上或ハ其方法ニ出ツルヤモ知レス然ルニ其場合米国ハ果シテ右ノ如キ意見ヲ改ム可キヤト反問シタルヲ以テ本官ハ非公式会議説ハ恐ラク固執セサルヘキモ或ハ単独ニ支那南北両政府ニ対シ上海ヲ交戦地帯外ニ置ク様勧説スル事アルヤモ計リ難シ況ンヤ英国ノ態度未タ分明セサル今日右ハ相当可能性アル可キモノト想像セラルト云ヘルニ陳ハ英国トノ交渉決裂説ハ事実無根ニシテ当方トシテハ今ヤ責任ヲ英国ニ転嫁シタルニ過キス本日モ重ネテ「オメリー」ニ対シ英国ノ不当ナル出兵ハ国民政府ニトリ重大問題ナリ支那ハ埃及ノ二ノ舞ヲ演スルヲ欲セス死活問題ヲ前ニシテノ当方提議ハ決シテ英国ヲ侮辱セントスルノ意ニ非サル旨ヲ繰返シ置キタリトテ其口吻ヨリ察スルニ英国ハ支那側ノ撤兵ノ主張ヲ容ル可シト多寡ヲ括リ居ルモノノ如ク見受ケタルモ本官ハ更ニ若シ英国ニシテ之ヲ容認セサル時ハ如何米国側ノ不安モ此処ニ基因スル処アルヘシト云ヘルニ陳ハ之ニ答ヘス只本件ハ篤ト熟考ノ上何レ確ナル意見ヲ御参考迄ニ申述フヘシト答ヘタリ

在支公使ヘ転電セリ

711　昭和2年4月(3)日　在ソ連邦田中大使より幣原外務大臣宛（電報）

中国問題に関するカラハン外務人民委員代理の談話について

モスクワ　発

本　省　4月3日前着

第一六九号

四月一日「カラハン」ト雑談ノ節支那問題ニ付同氏ハ二三ケ月前迄ハ南北ノ妥協ニ依リ安定シ得ルモノト思ヒタルモ今ハ其ノ見込少ナシ張作霖ハ遂ニ満州ニ退却セサルヲ得サルヘシト云ヒ次テ南方ハ既ニ十数省ヲ其ノ支配下ニ置キ北方ハ僅ニ二三省ヲ保持スルニ過キス而シテ南方政府ハ日本ニ対シ特ニ好感ヲ有スルニ日本ハ尚同政府ト積極ノ連絡交渉ヲ為スヲ躊躇シ依然北方ノミヲ相手トスルハ不可能ナルノミナラス日支通商条約ノ如キ大問題ニ付尚頻繁ニ商議ヲ継続シ居ルハ南方政府ニ執リテ不愉快ナルヘク日本トシテモ結局利スル処無カルヘク速ニ右商議ヲ打切ラルル事賢明ナルヘシト述ヘ更ニ最近英国ヨリノ電報ニ依レハ英国政府ハ日本政府ヲ誘ヒ過般ノ南京事件ニ対シ最後的通牒ヲ発シタリトノ事ナルモ元来内乱ノ際在留外国人ニ多少ノ損害ヲ与フルハ已ムヲ得サル事ニシテ右ハ内乱鎮定後適当ニ交渉セラルヘキモノナリ今最後的通牒ヲ以テ南方政府ニ挑戦スルカ如キハ何ノ意タルヲ解スル能ハサルノミナラス揚子江ノ重要地点ヲ占領又ハ砲撃スルカ如キハ事実不可能ナルニ非スヤト述ヘ居タリ

尚「アラロフ」ハ健康ノ都合ニ依リ出発期未定ナリトノ事ナリ

過般ノ南京事件ニ於テ支那人二千人殺サレタリトハ其ノ当時ヨリ当国新聞ニ特筆大書セラレ前記会見ノ際「カラハン」ハ右報道事実ナルヘキハ万県事件ノ例ニ依ルモ明カナリト云ヒ居リ当国ニテハ之ヲ種ニ更ニ反英熱ヲ煽リ居ル処累次ノ貴電及外国新聞記事ニ依ルモ事実ヲ誇張シタルモノノ如ク判然セサルニ付支那人ノ死傷数大体回電アリタシ

712　昭和2年4月11日　ベセドフスキーソ連邦臨時代理大使　幣原外務大臣　会談

在北京ソ連邦大使館捜索事件および中国の現況について

付記　在北京ソ連邦大使館捜索事件に関する調書（昭和二年四月亜細亜局第一課調）

在北京労農大使館捜索事件ニ関スル在本邦労農大使幣原大臣会談要領

昭和二年四月十一日在本邦労農大使幣原大臣ヲ来訪シ在北京労農大使館捜索事件ニ関シ労農政府ノ支那ニ対スル態度

方針ニ付四月九日同大使館参事官カ出淵次官ニ対シ述ヘタル所ト略同様ノ趣旨ヲ述ヘタル上要スルニ支那ノ現状ニ於テハ責任アル統一政府ナク之ニ対シテ強硬手段ヲ取ルトモ其ノ効果ナキハ勿論他ニ有効ナル手段モ見出シ難キ有様ナルヲ以テ労農政府ハ張作霖ノ挑発的行動ニ対シ隠忍自重ノ態度ヲ執ル覚悟ナリ尤モ右隠忍ニハ自ラ限度アルモ張作霖ニ於テ今日以上暴挙ニ出テサル限リ露国側トシテモ亦今日以上ノ措置ニ出ツルコトナカルヘシト述ヘタリ

次ニ南方及中央支那ノ情勢ニ関シ幣原大臣ヨリ支那ノ国民運動ニハ光明暗黒ノ両面アリ光明ノ方面即内ニ多年ノ悪政ヲ釐革シ外ニ独立自由ノ国家ヲ樹立セムトスル努力ニ対シテハ何人モ同情ヲ吝マサル所ナリト雖モ之ト同時ニ殺人暴行工業ノ破壊ト云フカ如キ暗黒ノ方面今ヤ各地ニ於テ露骨ニ現出シ光明ノ半面ヲ掩ハムトスル傾アルヤニ認メラル斯クノ如キ現象ハ世界ノ歴史ニ徴シ多クノ場合ニ於テ革命ニ付随スルモノニシテ恐ラクハ「ボロヂン」自身ノ欲スル所ニ非ルヘシト雖モ同氏カ国民政府ノ最高政治顧問トシテ有力ナル地位ヲ占ムル以上外国トシテハ同氏ニ於テ少クトモ其ノ責任ノ一半ヲ負フヘキモノト推測スルハ無理ナラス殊ニ犯罪行為カ主トシテ外国人ヲ目標トスルノ事実ハ益々国際関係ニ機微ナル情形ヲ醞釀スルモノナリト述ヘタルニ労農大使ハ幣原大臣ノ指摘セル支那国民運動ノ暗黒方面ハ同国ノ革命ヲ促進セスシテ却テ之ヲ阻害スルモノナルカ故ニ露国トシテ固ヨリ之ニ同情スヘキ謂ハレナシト答ヘ尚「ボロヂン」カ労農政府ノ代表者ニ非ルコトヲ弁疏シ同人ハ全ク個人ノ資格ニ於テ国民軍ニ投シタルモノナル処其人物寧ロ穏健ニシテ所謂極端ナル過激行動ヲ慫慂セルカ如キコトアルマシト信ス尤モ熱心ノ余リ時ニ常軌ヲ逸シ露国ノ支那革命ニ対スル同情ノ本旨ヲ毀損スルコトナキヤヲ惧ルヲ以テ自分ハ「アラロフ」ヲ公然労農政府ノ代表者トシテ漢口ニ派遣シ「ボロヂン」ノ脱線ヲ抑制セシムルコト可然トノ意見ナリシモ本国政府ニ於テハ「アラロフ」ノ漢口派遣ニ付議アリシモ今般之ヲ無期延期ト決シタル次第ナリト内話セルニ付

幣原大臣ハ支那時局混沌タル此ノ際列国何レモ未タ南北両政府ヲ承認スルニ至ラサル処露国独リ外交代表ヲ漢口ニ派スルコトトナレハ自然南方政府承認ノ形トナリ事態ヲ紛糾セシムルニ止リ貴使ノ思考セラルルカ如ク事態ノ安定ニ資

スル所ナカルヘシト思考スト述ヘ次テ雑談ニ移リタリ

（付　記）

在支労農露国公館等捜索事件ニ関スル件

（昭和二年四月亜細亜局第一課調）

一、在北京労農露国大使館構内捜索事件

㈠在北京労農大使館構内捜索ノ実況ト捜索後支那側ノ執リタル措置

㈠捜索ノ実況

昭和二年四月六日午前十一時頃安国軍東北第三十四方面軍団部憲兵、京師警察庁偵輯隊及便衣探偵合計約三百名ハ予テ車夫ニ変装シテ張込中ノ探偵ノ報告ニ基キ突如公使館区域内露国大使館ノ西隣ナル東省鉄路局駐京弁事処（東支鉄道管理局）並極東銀行ヲ襲ヒ同日午後六時半頃ニ亙リ之等建物内ヲ捜索シタル結果共産党ニ関係セル露国人二十二名支那人七十余名ヲ検挙シタルト共ニ証拠物件トシテ

小銃挙銃夫々約五十挺

機関銃　一門

弾　薬　二箱

宣伝委員会用排日英仏ノ印形数個

国民党用印形数個

赤旗及青天白日旗多数

宣伝用書籍「パンフレット」「ポスター」及伝単多数（著名ナルモノ別紙記載ノ通）

一味徒党四千人ノ名簿

中国銀行票二万五千元入リノ箱

等ヲ押収シタリ

右捜索ニ当リ支那軍警ハ手入レ前予メ前記建物ヲ厳重ニ包囲シ指揮者ハ挙銃ヲ手ニシテ捜索シタル為共産党員ハ抵抗スルニ由ナク又逃走スル術モナカリシカ如ク只軍警等カ旧兵営内武官事務所ヲ襲ハムトシタルニ露人ハ証拠ノ湮滅ヲ計ル為書類ヲ焼却セムトシテ放火シ巡警等ニ対シ発砲スヘシト脅シ之ヲ近付ケサリシカ支那消防隊直ニ駆ケ付ケ大事ニ至ラスシテ消止メタリ

尚右捜索ノ際安国軍総司令部外交部長呉晋カ現地ニ赴キテ軍警ト連絡ヲ取リタルヤノ趣伝ヘラレタルカ

他方労農大使館ノ北隣英国公使館トノ境ニハ英兵多数配置セラレ警戒ニ任シ居リタル趣ナリ（王外交次長ノ軍警指揮、英国軍隊ノ本件捜索傍観等ノ噂伝ヘラレタルモ事実無根ナルカ如ク察スルニ前記ノ諸事実誤聞セラレタルモノト認メラル）

㈡捜索後ノ支那側措置

安国軍司令部ハ捜索当夜即チ四月六日夜本件ニ関シ「コムミュニケ」ヲ発シ㈠東支鉄道事務局及極東銀行カ共産派煽動ノ中心ヲ為シ居リ且多量ノ兵器弾薬ヲ蔵セルコトヲ探知シタルヲ以テ捜査ヲ為スコトニ決シタル次第ナルコト㈡本件捜査ハ労農政府カ一九〇一年最終議定書ノ規定スル特権ト共ニ治外法権ヲ放棄シタル事実ヲ根拠トシテ行ハレ従テ不可侵ノ特権ヲ有スルモノハ大使館ノミナルコト並㈢捜査ノ実行ニ当リテハ支那司法当局ヨリ与ヘラレタル正規ノ権能ヲ提示セルノミナラス公使館区域当局ノ認可ヲ得居レルコトヲ公表スル所アリ

他方被検挙支那人中ニハ李大釗（第三「インターナショナル」北方区委員会委員長）路友于（国民党中央委員会特派北京常駐委員）劉青楊（著名ナル女流革命家）等アリ右被検挙者ノ処置方ニ関シテハ首席公使ヨリ司法当局ニ依リ公平ナル裁判ヲ受ケシムヘシトノ希望申出ノ次第モアリ（後記㈡ノ㈥参照）支那側ニ於テハ之ニ応シ裁判ニ依リ処分スル方針ヲ執リタリ而シテ被検挙支那人ハ軍事特別法廷ニ於ケル審理ノ結果罪状重キ者李大釗等二十名ハ四月二十八日死刑ノ宣告ヲ受ケ同日午後二時検察庁ニ於テ絞殺ニ処セラレタルカ右処刑ハ左記各条例ニ基キタルモノナル趣ナリ

(1)陸軍審判条例第一条

軍人ニシテ刑法ニ掲ケラルル各罪ヲ犯セル者又ハ軍人ニ非スト雖モ陸軍刑事条例第二条ノ罪ニ相当スル者ハ陸軍軍法会議ニ於テ之ヲ審判ス

(2)陸軍刑事条例

第二条　陸軍軍人ニ非スト雖左記犯罪ニ相当スル者ハ本条例ヲ適用ス

一、第二十七条第七項ノ罪ヲ犯セル者

（二、以下略ス）

第二十七条　左記ノ罪ヲ犯セル者ハ死刑ニ処ス

第七項　外国人ト結託シテ公安ヲ騒擾セル者

㈡本件捜索事件ニ関スル最終議定書関係国公使ノ措置

㈠本件捜索ニ先チ四月四日北清事変最終議定書関係国公使会議ノ席上首席和蘭公使ヨリ外交部ノ秘書来訪シ露国大使館構内ニ於テ種々ノ陰謀行ハレ諸建物内ニハ宣伝書類及多数武器包蔵セラレ居ルヲ以テ之ヲ奪取シ度ニ付テハ外交団ニ於テ支那警察官ノ夜陰ニ乗シ塀ヲ乗リ越エルコトヲ黙認シ呉レ間敷ヤトノ相談アリタル旨ヲ披露シ同公使トシテハ露国大使館内ニ支那ヲ擾乱スル陰謀行ハレツツアルコトハ何人モ承知シ居レル次第ナルニ付此相談ニハ同情ヲ表スル旨述ヘタルニ対シ芳沢公使ハ支那兵ノ公使館区域内侵入ヲ黙認スルカ如キハ甚タ面白カラス露国大使館内ハ露国ノ領土モ同様ナルカ外交団ハ公使館区域内ノ行政ニ付権限ヲ有スルモノナルヲ以テ右権限ニ基キ同大使館ト支那側トノ関係ハ支那側ト露国側トノ為ス所ニ任スコトトセハ可ナルヘシト述ヘタルカ英米公使ハ大使館ニ侵入セシムルコトハ先例トナリ面白カラサルモ極東銀行ノ如キ純然タル私有財産ニ立入ランカ為支那警察官カ公使館区域ニ入ルコトハ承認シ差支ナカルヘシト述ヘ各公使モ全然同意ヲ表シ結局首席公使ヨリ外交部ニ対シ純然タル私有財産ニ立入ル為公使館区域ニ警察官ヲ入ルルコトニハ別ニ異存ナキ旨回答スルコトトナリタリ

㈡六日捜索実行前首席公使ヨリ右趣旨ニ依リ支那側ニ対シ東支鉄道事務局、旧露国賠償委員会事務所、極東銀行ノ三者ハ現在私有財産ナルヲ以テ是等ニ立入ルコトナラハ差支ナキ旨申渡シ且京師警察庁ノ捜査逮捕状ニ署名シ置キタル処軍警ハ右諒解ノ範囲ヲ脱シ旧兵営ノ一部ニモ立入リタルニ付此点ニ関シ首席公使ハ六日直ニ顧外交総長ニ抗議ヲ提出シ七日ノ議定書関係国公使会議ノ諒解ヲ得タリ

（尚本件捜索ニ関スル外交団側ノ諒解ノ点ニ関シ前記七日公使会議ニ於テ外部ニ対シテハ陰謀事件等ニ付公使館区域内ニ於ケル私有財産捜索ノ為支那警察ヨリ右区域通過ノ請求アリタル場合ニ関シ之カ許否ノ裁量ヲ先般首席公使ニ主義上一任シ置キタル結果

首席公使ニ於テ六日其ノ裁量ヲ以テ許可ヲ与ヘタルモノナリト説明スルコトニ打合ヲ遂ケタル趣ナリ）

㈠四月八日ノ議定書関係国公使会議ニ於テ米国公使ノ提議ニ依リ首席公使ヨリ私信ヲ以テ支那側ニ対シ被検挙露支人ヲ直ニ銃殺スルカ如キコトアリテハ面白カラサルニ付裁判ニ付スル方可然旨各同僚ノ依頼トシテ申入ルルコトトナリ同日付京師警察庁長宛書翰ヲ発送シタル処十二日付ヲ以テ同庁長ヨリ首席公使ニ対シ其ノ希望ニ副フヘキ旨申越セリ

㈢労農露国政府ノ態度及措置

㈠露国政府ノ方針ニ関スル在本邦露国大使談話

四月九日在本邦露国大使館参事官及十一日露国大使夫々出淵次官及幣原大臣ヲ来訪シ本件ニ関スル労農政府ノ態度ニ関シ同政府ハ張作霖ノ如キ国際法ヲ弁ヘサル者ニ対シ何等強硬手段ヲ執ルモ無益ナルニ依リ支那側ニ於テ拉致シタル露人ヲ銃殺スルカ如キ暴挙ニ出ツルカ又ハ東支鉄道ニ対シ乱暴ナル処置ヲ執ルカ如キコトナキ限リ此際隠忍自重ノ態度ヲ持スルニ決セル旨ヲ内話シタリ

㈡露国政府ノ対支通牒及之ニ対スル支那政府ノ差当リノ回答

次テ十日莫斯科外務部ハ蘇連外務人民委員代理「リトヴィノフ」ノ鄭代理公使宛九日付書翰全文ヲ公表シタルカ右書翰中「リトヴィノフ」ハ支那政府ニ対シ

(1)大使館付陸軍武官、大使館員及通商代表部員ノ家屋ヨリ即時支那軍隊及警察ヲ撤退スルコト

(2)大使館及経済機関ノ使用人ヲ即時釈放スルコト

(3)陸軍武官ノ家屋ニ於テ押収シタル書類ハ総テ之ヲ即時返還スルコト

(4)金銭、物品家具、書籍等警察及安国軍指揮官ニ於テ掠奪押収セル財産ハ即時所有者ニ返還スルコト

ノ要求ヲ為シ右要求ノ容認迄在北京代理大使及大使館員ハ全部ヲ本国ニ引揚ケ領事事務執行ノ人員ノミヲ残置スル旨ヲ明ニシ又労農露国ハ報復手段ヲ執ルニ充分ノ実力ヲ有スルモ北京事件ハ無責任ナル外国ノ帝国主義者カ露国ニ対シ戦争ヲ挑発シ新ナル世界戦争トナサントスルモノナルニ付露国ハ斯ル挑発ニ乗ルコトナク世界ノ平和維持ニ極力努ムヘシト結ヒタリ

（注）前記「リトヴィノフ」書翰ノ内容ニ関シ外交次長王蔭泰カ在支帝国公使館員ニ語ル所ニ依レハ右公表文ハ原文トノ間ニ甚シキ差異アリ原文ノ要求事項ハ(1)軍警ノ引揚(2)武官室ノ書類返還(3)大使館関係員ノ引渡(4)商務機関（極東銀行）ニ関スル分ハ引離シテ取扱フコトノ四項ニシテ右(4)項ハ公表ノ分ト全然異レル外全文ニ亙リ用語意味等著シク相違セル趣ナリ

支那政府ハ前記露国政府ノ対支通牒ニ対スル正式回答ハ右通牒全文郵報接到後之ヲ発スルコトトシ不取敢在莫斯科鄭代理公使ヲシテ左記ノ要旨ヲ労農側ニ申入レシムルコトトシ四月十六日其旨代理公使宛電報セリ

(1)今次捜索ノ実行ハ労農側ノ明白ナル国際公法及露支協定違反行為ニ対スル支那ノ国家自衛権ノ発動ニ根拠セルモノナルコト

(2)公使館捜査ノ先例乏シカラス蘇連自ラ之ヲ行ヒシコトアリ加之今次捜査ハ大使館自身ニ及ハサリシコト

(3)捜査ノ結果蘇連及共産党通謀ノ証拠多数発見セラレタルニ鑑ミ蘇連大使館ハ責任ヲ免ルルヲ得サルコト

(4)今次捕獲ノ人物及物件ニ対シテハ正式手続ニ依リ訊問検査中ナルコト並支那政府ハ一切ノ処罰ヲ留保スヘキコト

(5)労農政府ノ対支通牒四ケ条ハ差当リ照弁シ難キコト

(ハ)本件ニ関スル「ルイコフ」ノ演説

蘇連人民委員会議長「ルイコフ」ハ四月十日第十三期全露「ソヴエット」大会ニ於テ政府事業ノ報告ニ先立チ本件ニ言及シ在支労農代理大使ノ引揚ハ外交関係ノ断絶ヲ意味セサルコト並本件ニ関スル政府ノ方針トシテ前記在本邦露国大使ノ幣原大臣ニ対スル内話ノ趣旨ヲ述ヘタル後外交団ノ諒解問題ニ関シ右諒解ニ関係ナキコトヲ表明セサルハ最終議定書関係国中英伊ノミナリトテ右両国カ主トシテ張作霖ヲ煽動シテ今次ノ挙ニ出テシメタリトナスカ如キ口吻ヲ洩セリ

(ニ)在支露国代理大使ノ本国引揚

在北京「チョルヌイフ」代理大使以下館員ハ政府ノ引揚命令ニ基キ領事事務取扱主任商務随員ノ二名ノミヲ残留セシメ二十日頃迄ニ北京発奉天経由帰国シタリ

二、在上海労農露国総領事館包囲事件及天津労農諸建物捜索事件

(一)在上海総領事館包囲事件

前記四月六日ノ北京大使館構内捜索事件並右事件ニ関スル上海新聞論説中工部局当局ノ強硬手段ヲ慫慂セル記事ニ刺激セラレタルヤニテ在上海露国総領事館ニ於テハ七日早朝ヨリ動揺ノ気配アリ且多量ノ書類ノ焼却ヲ始メタルカ如ク同館煙突ヨリハ焼キタル紙ノ粉煙ヲ盛ニ噴出シ居タル趣ナル処同日午後五時ヨリ上海工部局警察ハ白露人義勇隊ノ援助ヲ得テ同館ヲ包囲シ出入者ノ監視、身体検査ヲ行ヒタリ

右ニ対シ露国総領事ハ上海首席領事ニ対シ工部局警察ノ措置ヲ至急停止スヘキ旨並将来惹起スヘキ事態ニ対シ領事団員ニ於テ責任ヲ負フヘキ旨厳重申出来レル為八日領事会議ヲ開催シ其結果領事団ハ土地規則ニ基キ警察権ヲ工部局ニ委任シアルヲ以テ先ツ工部局ヨリ説明ヲ徴シタル上更ニ回答振ヲ考究スルコトトナリタルカ其後領事団トシテ何等ノ措置ニ出テ居ラサルカ如シ

(二)天津労農諸建物捜索事件

四月七日午後天津支那警察当局ハ仏国領事ノ許可ヲ得テ工部局警察立会ノ下ニ仏国租界内ニ在ル(イ)極東銀行(ロ)同支店長住宅(ハ)東支鉄道商業部(ニ)蘇連貿易部(ホ)蒙古中央信用組合ノ五ケ所ノ家宅捜索ヲ行ヒタルカ目星シキ物ヲ発見スルコト能ハサリシ趣ナリ

本件ニ関シ仏国領事ノ談ニ依レハ従来仏国側ニ於テハ支那警察ノ直接捜査ヲ許ササリシモ今次ハ一時ニ五ケ所ノ捜査ヲ為スコトヲ要シ工部局警察ニテハ手不足ナルト事態ノ急迫セルトニ鑑ミ六日ノ北京事件ノ例ニ倣ヒ支那側ヲシテ直接捜索ニ当ラシメ工部局警察ヲシテ之ニ立会ハスコトニ止メタル次第ナルカ支那側ニ対シテハ之ヲ以テ先例ト為ササルコトニ諒解セシメ置キタル趣ナリ

三、労農公館等捜索事件ニ関スル各地露国側輿論

本件北京大使館構内建物捜索及上海総領事館包囲事件勃発スルヤ奉天、哈爾賓、満州里等ニ於テハ始メ露支国交断絶説伝ハリ人心動揺シ奉露協定廃棄、労農側ノ東支鉄道引揚、東支鉄道同盟罷工等種々ノ流言流布セラレタルモ前記一(三)ノ(ロ)労農政府側対支通牒ノ内容公表セラレ労農幹部ノ態度静穏ナルヲ知リ人心漸ク平穏トナリタリ尤モ露国側各地ノ輿論ハ今次事件カ張作霖ノ黒幕タル列国

側殊ニ英国ノ煽動ニ依ルモノナリトスルニ一致シ居レル
モノノ如シ

（別　紙）

在北京労農露国大使館構内捜索ノ結果支那軍憲側ノ押収シタル文件ハ極メテ多数ニ上リ其目録及内容ハ警察庁ニ於テ翻訳ノ上四月十五日以来続々公表セラレ居ル処右文件目録及内容中興味アルモノヲ挙クレハ左ノ如シ尚在支公使館ニ於テハ右公表ノ分ハ原文ニ付之ヲ確メ方尽力中ナリ

一、目録中興味アルモノ

(イ)朝鮮ニ於ケル労農秘密探偵組織ノ状況

(ロ)労農軍事探偵団ノ遼東半島及日本ノ軍事政治状況調査報告

(ハ)日本兵営支那人雇員ヲ雇ヒ支那軍界人員ノ行動及談話ノ状況ヲ報告セシムル件

(ニ)労農大使館雇員張伯華ヲシテ日本公使館人員ト連絡シ日本公使館ノ秘密及同館秘密名簿並日本ト国民党トノ関係ヲ偵察セシムル件（在支公使館ニ於テ本文件ノ内容ヲ取調ヘタル処公使館ノ書類ハ一モナク主トシテ陸軍武官関係ノ書類頗ル多キモ重要ナルモノナカリシ趣ナリ）

二、内容ノ発表セラレタル文件中最モ注目ニ値スルモノハ「インターナショナル」執行委員会総会ヲ通過セル支那問題決議事項ヲ莫斯科ヨリ在北京労農大使館付武官ヲ経テ支那共産党ニ訓令セルモノ及一九二六年上半期ニ於ケル労農在支軍政費予算表之ナリ

(イ)「インターナショナル」共産党執行委員会ノ支那共産党ニ対スル訓令ノ要領

(1)差当リ支那革命運動ノ維持増進ニ全力ヲ傾注スルコト此目的ヲ達成スル為国民党ヲ以テ支那唯一ノ独立党ト認メ同党ニ有利ナル宣伝トシテ漢口事件及之ニ対スル英国ノ態度ヲ出来得ル限リ拡大利用スヘシ何トナレハ該事件ハ国民党ノ国民的運動ノ進歩ヲ証明シ一面欧州各国ノ支那革命ニ対スル戦闘力ノ著シク衰退セルヲ証明スレハナリ

(2)張作霖軍隊占領地域ノミニ於テハ努メテ排外的混乱ヲ激成スヘシ

(3)張作霖ハ支那国民運動妨碍ノ為外国資本主義及帝国主義ヨリ雇ハレタルモノナリト宣伝シ同人ノ威信ヲ失墜

セシムルコト

(4)排外暴動ノ風潮ヲ煽動シ反英計画（以下焼失）

(5)凡ユル方法ヲ設ケテ国民軍ヲ煽動シ外国人ヲ排斥セシムルコト此目的ヲ達成スルカ為ニハ民衆ト外国軍隊トノ武力衝突ヲ起サシメ各国ヲシテ干渉ノ手ヲ下スニ至ラシム之カ為ニハ如何ナル手段ヲモ仮借セス掠奪及多数ノ虐殺モ亦実行スヘシ偶々外国軍隊衝突事件起ラハ此機会ヲ捉ヘテ煽動ヲ行フヘシ

(6)目下ノ所暫ク共産党綱領ノ実行ヲ緩和スヘシ何トナレハ今之ヲ実行スルトキハ張作霖ノ地位ヲ鞏固ナラシメ且国民党ノ分裂ヲ促進スルヲ以テナリ依テ吾人ハ「ボロジン」ニ対シ厳重ニ訓令シ暫時資本階級ニ対スル過激手段ヲ停止シ張失敗前ハ自己ノ宗旨ヲ包蔵シ暫ク国民党内各種階級ノ存在ヲ保留シ資本階級モ亦保留セシム

(7)此種排外運動ヲ実行スルニ当リ各国間ノ関係ヲ不調和トナスコト最モ重要ナリ日本ハ最モ短期間ニ多数ノ軍隊ヲ支那ニ派遣シ得ルヲ以テ日本ト各国トヲ離間セシムルコト特ニ必要ナリトス故ニ一切ノ運動ニ於テ予メ日本居留民ニ被害ナカラシムルコトヲ期スヘシ但シ排外風潮激動ノ時ニ於テ日本ヲ除外スルハ殊ニ不愉快ノ感ヲ惹起スヘキヲ以テ之カ実行ノ場合ニハ必ス排英運動ニ名ヲ托スヘシ本件要領ハ速ニ支那及指導員ニ配布スヘシ（以下焼失）

(ロ)一九二六年上半期（一九二五年十月乃至一九二六年三月）労農在支手先ノ軍政関係経費予算表（単位米弗）

（甲）支那全国ニ対スル普通経費

一、中央総機関職員部経費	一一、七〇〇
二、諸補助費	六八〇
三、旅費	四、〇〇〇
四、軍事人員外国語文学習費	六五〇
五、郵電費	六、〇〇〇
六、交際費	六、〇〇〇
七、支那人政治人員雇傭費	六、〇〇〇
八、支那共産党中央部軍事指導人員経費	五〇、〇〇〇
九、自動車賃	三〇〇
計	八五、三三〇

外ニ予算外トシテ一割　八、五三三
総　計　九三、八六三
（乙）馮玉祥軍隊経費
一、六十名委員団俸級　七〇、二〇〇
二、高級及党部学校費　二〇、〇〇〇
三、軍隊中党務及倶楽部事務費　六、〇〇〇
四、地方党務職工組織費　三、〇〇〇
五、内蒙古匪供給費　九、〇〇〇
六、出版報紙及雑誌費　一、〇〇〇
七、旅費　二三、四〇〇
八、郵電費　二、〇〇〇
九、公事文房具費　四〇〇
一〇、自動車賃　三〇〇
計　一三五、三〇〇
外ニ予算外トシテ一割　一三、五三〇
総　計　一四八、八三〇
（丙）国民第二軍及第三軍経費
一、五十名委員団俸給　五八、五〇〇
二、高級及党部学校費　二〇、〇〇〇
三、軍隊中党務及倶楽部費　六、〇〇〇
四、地方党務機関経費　一二、〇〇〇
五、旅　費　一九、五〇〇
六、印刷部及出版報紙費　八、〇〇〇
七、郵　電　費　四、〇〇〇
八、公事文房具費　四〇〇
計　一二八、四〇〇
予算外トシテ一割　一二、八四〇
総　計　一四一、二四〇
（丁）広東経費
広東経費ハ報告不充分ナルニ因リ続報ヲ俟テ決定ノコト云云

713　昭和2年4月11日　在仏国石井大使より幣原外務大臣宛（電報）

中国時局対策に関するレジェ亜細亜局長の談話について

パリ　4月11日後発
本省　4月12日後着

第一三〇号

支那時局ニ関シ仏外務省亜細亜局長「レジエ」カ河合ニ語レル処左ノ通

一、漢口在留仏国民ノ引揚ケハ形勢観望中ナルカ日本居留民同地引揚ケノ場合ニハ仏国モ引揚クヘシ斯クテ揚子江上流ニ於ケル仏国民ハ漸次上海ニ集中セシメ以テ支那ノ事態安全ヲ待ツヘク之カ保護ノ為ニハ「バジール」提督ノ稟請ニ応シ必要ナル兵力ヲ派遣シ居レルカ将来モ同司令官ノ意見ヲ重要視スヘシ

二、南京ニ於テ殺害セラレタル宣教師二名ハ仏国政府ヨリ退去ヲ命シタルニ拘ハラス残留セルモノニシテ仏国トシテハ此上ノ責任ハ執リ難シ

三、上海防備ノ為メニハ居留地以外ノ地ヲ占領スル必要アルモ右必要ナル区域ニ限ラルヘク英国ノ考フル如ク広汎ナル区域ノ占領ニハ反対ナリ

四、漢口事件以来英国ノ外交失策殊ニ「オマレー」陳友仁協定ノ為吾人モ同様ノ代価ヲ支払フ事余儀ナカルヘシ仏国ハ南方派カ支那統一政府樹立迄陳友仁トハ公式ノ交渉ヲナササル方針ナルカ内々接触シタル結果ニ依レハ陳ハ目下ジツトシ居ル事仏ニ取リ有利ナルヘシト洩シ居レリ

五、仏国モ南方穏健分子ヲ間接援助スル方針ナルカ南軍ハ露国ヨリ武器、金銭、技術者ノ供給ヲ受ケ居リ蔣介石ト雖モ露国勢力ノ撲滅ハ容易ナラサルヘク他方露国ハ国民運動成功後露国排斥ノ段取トナルヲ予見シ支那ノ不平分子ヲ糾合シ全国ニ亙リ共産的社会革命ヲ来シツツ在ルヲ以テ支那将来ノ形勢ハ楽観ヲ許サス

英、米、伊ヘ暗送セリ

714　昭和2年4月14日　在満州里田中領事より幣原外務大臣宛

在北京ソ連邦大使館捜索事件後の地方現況について

機密公第九五号　（4月22日接受）

昭和二年四月十四日

在満州里
領事　田中　文一郎（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

時局ニ関連シ地方現況報告ノ件

今般ノ在北京「ソ」連邦大使館付属家屋捜索事件ニ関シ当地一般人民ハ十日夕漸ク哈爾賓新聞到着後ニ知リ十二日夕

露支外交関係断絶ノ報ヲ得テ赤軍ノ襲来説行ハレ人心頓ニ動揺ヲ来シ無国籍露人間ニ殊ニ甚タシク十四日日本人引揚説行ハレタルモ一般ニ本邦人引揚クル迄ハ大丈夫ナリト思惟シ居ル模様ナリ

当地「ソヴィエト」領事館ニテハ九日夜自動車二台ニ重要書類ヲ積ミ「ダウリヤ」方面ニ向ケ搬出シ爾来鞍ヲ置キタル馬六頭ハ常ニ領事館構内ニアリ十三日夜露領ヨリ自動車一台来リ同夜帰還セル由ニテ万一ノ際ハ国境外ニ逃ケ出ス準備ヲナシ居ルモノト思ハル

「ゲイツマン」領事ハ七日哈爾賓ノ領事会議ヨリ帰任病妻療養ノ為三ケ月ノ休暇ヲ得タルニ付十四日頃出発帰国ノ予定ナル旨ヲ本官ニ語リ殊更乗車切符ヲ見セ居リシカ其目的ノ真相ハ不明ナリ

海拉爾ニ於テハ諜報者（白系露人ニシテ蒙古語ニ通シ蒙古政庁ト密接ノ関係ヲ有ス）ノ報告ニ依ルニ同人ハ十一日北京事件ノ報アリタルニ付蒙古政庁ニ赴キタル処官員ハ露支戦争アリヤ、日本出兵シ来ルヤ、露国ハ東支鉄道ヲ占領スルコトナキヤ、大洋下落ハ張作霖側ノ状況不利ナルモノナリ外蒙古赤軍ノ来襲アルヤモ知レス等ノ想像説ヲナシ居リ蒙古旅団長「ダムジン・スウルン」台吉（右派）ハ外蒙トノ国境守備検閲ノ為メ十二日出発スルコトトセリ

同地露国領事「ユーリン」ハ蒙古政庁左庁長ニシテ親露青年党ノ首領ト称セラルル成徳ト共ニ十一日海拉爾ヲ距ル十露里（十粁）ノ「ウルダ・アイル」ナル達呼爾人村ニ自動車ニテ赴キタルニ付右諜報者モ同地ニ行キ実見シタルニ同地ニアル過激派倶楽部ヨリ八箱ノ荷物ヲ右自動車ニ積ミ于珠爾廟街道ニ依リ外蒙方面ヘ発送シ領事及成徳ハ馬車ニテ帰海セリト云フ右モ支那側ノ捜索没収等ニ備フル為メ文書等ヲ隠匿処分シタルモノト思料セラル

尚海拉爾市ニ於テハ十日外国人及白系露人ヲ打ツヘシトノ支那文ノ伝単市中ニ貼ラレタルモ間モナク警察署員ノ為メ剝カレタル由

支那側ハ最近入露ノ支那労働者多クナリ毎週五百ニ達セル状況ナルヲ以テ奉天及哈爾賓ノ命ニ依リ是等支那人カ露領ニ於テ軍隊ニ入ルヤノ風説ニ関連シ其入露ヲ禁止シ十二日ヨリ実行セリ

右報告申進ス

本信写送付先　在支公使、在奉天総領事、在斉斉哈爾領事

715　昭和2年4月30日　田中外務大臣　ド・ビリー仏国大使　会見

対中国政策について

大臣会見録　一

四月三十日新任仏国大使「ド・ビリー」氏大臣ヲ来訪

同大使ヨリ御信任状並其ノ捧呈ノ際朗読スヘキ言上振リノ写ヲ手交シテ成ル可ク速ニ陛下ニ御謁見ノ手続ヲ執ラレ度キ旨依頼シタル後

㈠日仏通商問題ニ関シ

（略）

㈡支那問題ニ関シ仏国大使ヨリ

自分ハ支那問題ニ就テハ未タ之ヲ語ルノ資格ナキモ赴任ノ途次上海ニ滞在スルコト一週間親シク其ノ状況ヲ目撃シタルカ故ニ御尋ネスル次第ナルカ南京ノ問題、漢口ノ問題若クハ北方政府ノ問題ニ付テノ閣下ノ大体ノ御意見ヲ伺フコトヲ得ハ今後ノ自分ノ職務遂行上多大ノ便宜ヲ受ケルコトト存スト述ヘタルニ対シ大臣ヨリ自分ハ就任日尚ホ浅クシテ現下ノ個々ノ問題ニ付テハ未タ全部ノ書類ヲ読了スルノ遑ナキモ元来支那ニ付テハ多大ノ興味ヲ持チ居リ根本ノ観念トシテ支那ニ於ケル出来事ハ支那人ヲシテ之ヲ解決セシメサルヘカラストノ信念ヲ有シ列国ヨリノ干渉ヨリ圧迫若クハ出兵ノ如キハ必要以外ノ時ニ於テ之ヲ為スヘカラス列国ハ協調シテ右支那自身ノ努力ヲ援助スヘキモノナリ唯在留民ノ保護並ニ既得ノ権利利益ノ擁護ノ為ニハ勿論最善ノ方法ヲ尽ササルヘカラスト確信シ居レリト答ヘラレタルニ更ニ同大使ヨリ只今ノ御言葉ヲ聞キ甚タ安心セリ自分ノ今回ノ上海滞在中目撃シタル所ニ依レハ上海領事団ノ執リツツアル処置モ只今ノ閣下ノ御方針ニ副フモノナルカ如ク列国ノ利益保護ヲ以テ行動ノ限度ト為シ居ル事ヲ認メタリト述ヘ更ニ大臣ヨリ支那ニ対シ必要ナラサル場合ニ徒ラニ手出シヲスルトキハ支那人ヨリ其ノ手ヲ噛マレ禍ヲ後日ニ残スノミナルコトハ我々ノ忘ルヘカラサル所ナリ尚ホ個々ノ問題ニ付テハ後日互ヒニ意見ヲ交換スルノ機アルヘシト述ヘラレタリ

昭和二年四月三十日

（欄外記入）仏国大使ハ引続キ出淵次官来訪ノ際大臣ハ斯ク云ハレタリト確認セリ（次官）

（欄外記入）

716

昭和2年5月3日　田中外務大臣
ティリー英国大使　会見

対中国政策における日英協力について

大臣会見録　二

五月三日午後三時英国大使田中大臣ヲ来訪

対支問題ニ就テ従来日英両国ハ出来得ル限リ共同ノ措置若ハ行動ヲ執ルコト並ニ支那各派ノ孰レニモ加担若ハ干渉セサルコトニ互ニ努力シ来リタルカ閣下ニ於テモ此点ニ於テハ同様ノ御考ヲ有セラルルコトト信ストノ英国大使ノ問ニ対シ

大臣ハ全ク同意見ニシテ何等異ル所ナシ元来支那ニ於ケル出来事ハ支那人ヲシテ解決セシムヘキモノニシテ列国ハ絶対必要ノ場合ヲ除キ之ニ干渉スヘキモノニ非ス不必要ノ場合ニ支那ニ手出シヲスルトキハ支那人ヨリ其ノ手ヲ咬マルルヲ忘ルヘカラスト答ヘラレタルニ英国大使ハ差当リノ問題トシテ北京ニ於テ関係国公使ノ間ニ武漢政府ニ対スル第二次覚書ヲ討議シツツアル処「ラムソン」公使ヨリノ報告ニ拠レハ芳沢公使ハ米国ニ加担セラルルカ如キ印象ヲ与ヘタリトノコトナリシカ過日出淵次官来訪ノ結果右「ラムソン」ノ印象ノ誤レルコトヲ知リテ喜ヒ居ル次第ナリト述ヘタルニ

大臣ハ之ニ対シ日本ハ対支問題ニ就テハ何処迄モ関係国間ノ協調ヲ保タムコトヲ念ト致シ居リ従テ芳沢公使ニ於テハ此協調ヲ保タムカ為ニ努力コソスレ之ニ反スルカ如キ態度ヲ執リタリトハ自分ノ信セサル所ナリト答ヘラレタリ

次ニ英国大使ハ北支那駐屯軍増加ノ問題ニ付閣下ハ現下ノ状態ニ於テ北支那ニ於ケル外国人ノ生命財産保護ノ為並ニ北京、海口間ノ交通維持ノ為北支那ニ於ケル守備兵ヲ増スノ必要ヲ認メラレサルヤトノ問ニ対シ

大臣ハ現在ニ於テ北支那ニ於ケル状態ハ守備兵ヲ増加セサルヘカラサル程ノ急迫ナル事態ニ在リトハ信セス日本トシテハ目下其ノ守備兵力ハ従前ノ二倍以上ニ達シ居ルカ故ニ在留日本人ノ保護ノ為ニハ之ヲ以テ充分ナリト信シ居レリト答ヘラレ

更ニ英国大使ヨリ事態右ノ如クナルヲ以テ満州駐屯軍ノ北支那ニ進メラルルカ如キ必要モ亦認メラレ居ラサルナラント問返シタルニ対シ

大臣ハ固ヨリ急迫必要ノ事態発生スレハ満州駐屯軍ヲ割キテ北支那ニ進マシムル準備ハ為シ居レトモ現在ニ於テハ斯ノ如キ必要ヲ認メ居ラスト答ヘラレタリ

次ニ英国大使ハ来ルヘキ軍縮会議ノ会議地ニ関シ之ヲ「ジエネヴァ」以外ノ地ニ於テ開カムトノ説アルカ如キモ英国政府ニ於テハ今更之ヲ変更スルノ必要ヲ認メス過日出淵次官ヨリ聞キタル所ニ依レハ日本政府ニ於テモ特ニ之ヲ変更スル必要ヲ認メラレサル趣ナルカ閣下ニ於テモ同様ノ御考ナリヤト問ヒタルニ対シ

大臣ハ「ジエネヴァ」ニ於テ開クコトハ一種ノ意味アリ又種々ノ便宜モアリト考フルカ故ニ特ニ之ヲ変更スル要無カルヘシ但シ会議地ノ如キハ別ニ大問題ニモアラサルカ故ニ深ク考慮シタルコト無キモ当座ノ考トシテハ別ニ変更スル必要モ無カルヘシト答ヘラレタリ

最後ニ英国大使ヨリ支那問題ヲ離レ現在ニ於テ日英両国ノ間ニ何等衝突若ハ紛議ノ種トナルカ如キ問題ナシト思考スル処閣下ノ御意見如何ト問ヒタルニ

大臣ハ全然同感ナリ日英同盟ハ形ニ於テハ消滅シタルモ其ノ精神ハ今日モ尚生存シ居リ従テ日英両国ノ間何等紛争ノ種ナキハ自分ノ甚タ欣フ所ニシテ今後ト雖両国ノ問題殊ニ支那ニ関スル問題ニ付テハ互ニ右ノ精神ニ依リ忌憚ナキ意見ノ交換ヲ行ヒテ従前ト同シ道ヲ歩ムコトヲ心掛ケタシト述ヘラレ

之ニ対シ英国大使ハ英国ト雖全然之ニ同感ニシテ「チエンバレン」氏モ屢々此趣旨ヲ開陳セラレタリト付言シタリ英国大使ヨリ何等閣下ヨリ伺フヘキコトナキヤトノ問ニ対シ大臣ハ自分ノ得タル報告ニ拠レハ武漢政府ニ於テハ多数ノ失職者ノ問題特ニ湖南ニ於テ農民ヲ使嗾シタル結果起リツツアル農作不良ノ問題等ノ為甚タ困窮セル状態ニ在リトノコトナルカ其ノ結果武漢地方ニ於ケル共産運動ノ如キハ漸次影ヲ潜ムルニ非スヤト認メラルル処閣下ニ於テハ何等斯ル報告ニ接セラレサルヤト問ハレタルニ

英国大使ハ昨日英国外務省ヨリ「ラムソン」公使ニ宛テタル電報ヲ受取リタルカ之ニ依レハ英国政府ニ於テモ武漢政府ノ影ハ漸次薄ラキツツアリトノ印象ヲ有スル旨ヲ掲ケ居レリ之ニ対スル北京ヨリノ返電ハ未タ接手セサルモ少クモ英国政府ノ印象ハ上ノ通リナルカ如シト答ヘタルカ

大臣ヨリ更ニ武漢政府ノ上述ノ状態ハ関係国公使間ニ於テ現ニ審議シツツアル覚書ヲ送付スルニ当リテモ充分考慮セ

サルヘカラサル所ニシテ武漢ヨリモ寧ロ南京方面ヲ相手トスルコト問題ノ解決上却テ便利ナルニ非スヤトモ思ハルルカ如何ト反問セラレタルニ

英国大使ハ英国外務省ニ於テハ武漢政府ニ付前述ノ印象ハ有シ居ルモサリトテ其ノ結果交渉ノ相手方ヲ陳友仁ヲ変シテ蔣介石トナスヘシト迄ノ決定ニハ至リ居ラサルカ如シ殊ニ現ニ少クトモ四国公使ノ間ニ於テ討議シツツアル覚書ハ陳友仁宛発送スルコトノ予想ノ下ニ起草セラレ居ル点並ニ既ニ陳友仁トノ間ニ書面往復ヲ致シタル結果本件ニ付テハ他人ヨリモ陳友仁ニ於テヨリ多クノ責任ヲ感スヘシト信セラルル点ハ遽カニ忘ルヘカラサル所ト信スト答ヘ

大臣ヨリ更ニ固ヨリ自分モ今直ニ交渉ノ相手方ヲ変更セムコトヲ主張スルモノニ非ス唯影薄キ武漢政府ヲ相手トスルコトハ却テ問題ノ解決ヲ遷延スルノミナリト懸念セラルルニヨリ南京ニ於テ交渉ヲ開始シ得ル事態トモナラハ便宜ナランカト考ヘタル迄ナリ尤モ蔣介石一派カ何処マテ誠意ト実力ヲ有スルヤハ勿論問題ナレトモ之モ遠カラスシテ判定シ得ルコトト信スルカ故ニ日本政府ニ於テ之カ判定ノ上材料ヲ得タル節ハ閣下ニモ御知ラセ申スヘシト述ヘラレタルニ

英国大使ハ蔣介石ニ就テハ英国政府モ只今ノ御話ト同様ノ考ヲ有シ居ルヤニ承知シ居ルカ故ニ此点英国側ニ於テ何等決定的ノ意見ニ達シタル際ニハ直ニ閣下ニ御知ラセ致スヘシト答ヘタリ

（昭和二年五月三日沢田電信課長口述速記）

717　昭和2年5月13日　田中外務大臣　ティリー英国大使　会見

南京・武漢両政府との関係および日英協力について

大臣会見録(六)

五月十三日午後英国大使来訪

英国大使ヨリ過日「チェンバレン」氏ノ「メッセージ」ヲ出淵次官ノ手許迄差上ケ置キタルカ御覧被下タルヤトノ問ヒニ対シ大臣ヨリ右「メッセージ」ハ自分ノ深ク「アプリシエート」シタル所ニシテ早速閣議ニ於テモ閣僚ノ前ニ其ノ内容ヲ披露シ置キタリト答ヘラレ更ニ大使ヨリ過日会談ノ節閣下ヨリ南京政府ヲ今後ノ交渉ノ相手方トスルコトニ付御話アリタル次第ヲ早速本国ヘ電報シ置キタル処英国政府ニ於テモ略々同様ノ意見ヲ抱キ居リタル折カラノ事トテ早速漢口政府ニ対シ同政府ニ於テ南京事件ノ如キニ付苟モ文明政府ノ執ルヘキ責任ヲ執リ得サルカ故ニ最早之レヲ相手トシテ交渉スルノ要ナキコトヲ通告シタル上同地ニ在リタル英国ノ代表者ニ引揚ケヲ命スルコトニ決定シタル旨ノ電報ニ接シタリト述ヘタルニ

大臣ヨリ右英国政府ノ御決定ハ頗ル時宜ニ適シ且賢明ナル措置ト思考ス実ハ漢口政府ヨリ先般日本政府ニ対シテモ代表者派遣方依頼シ来リタルカ自分ハ断然之ヲ拒絶セシメタリ

抑々陳友仁ノ如キハ各国ノ代表者ヲ漢口ニ招致シ以テ漢口政府ノ基礎ノ強固ナルコトヲ見セ掛ケムトスルモノナルニ依リ自分ハ代表者ノ派遣ヲ峻拒セシメタル次第ニシテ従テ英国側ノ今回ノ措置モ賢明ナリト思考スル次第ナリト述ヘラレタリ

次テ英国大使ヨリ南京政府カ果シテ外国トノ関係ヲ樹立シテ外国トノ間ノ繋争事件解決ヲ図リ得ル程度ノ強固性ヲ帯ヒ来レルヤニ付英国政府ハ閣下ノ御意見ヲ知ランコトヲ欲スル旨ヲ述ヘタルニ大臣ハ蔣介石ニ於テハ共産派ノ撲滅及外国トノ関係樹立ニ対シ漸次真面目ニ考ヘ来レルカ如ク認ムル旨ヲ答ヘラレ

更ニ英国大使ヨリ蔣介石ト張作霖ノ北方派トノ間ニ妥協若クハ連絡ヲ付ケントスル運動アルカ如キ処御意見如何トノ問アリ、大臣ハ蔣介石ニ於テハ共産派撲滅ノ為メ事実熱心ニ努力セントシ居リ北方派ト雖モ赤賊打倒ハ予ネテノ主張ナルヲ以テ少クモ蔣介石カ武漢派攻撃ノ為メ西進セントスルヲ北方派ニ於テ妨害スヘキ理由ナク此辺ニ南北ノ妥協ノ基調ヲ見出シ得ルカ如シ但シ斯カル連絡若クハ妥協ハ支那人自身ノ努力ニ任スヘキモノニシテ第三者カ外間ヨリ無用ノ容喙干渉ヲ試ムヘキモノニアラスト述ヘラレタルニ英国大使モ当ニ然リトテ之ヲ首肯スルト共ニ但シ若シ支那人自身ノ努力ニ依リ右張蔣両派ノ妥協成立スルカ如キアラハ吾々ハ之ヲ一ノ統一政府ト見做シ之ト新タナル関係ヲ保チ同時ニ従来ノ繋争問題ノ解決ヲ図ラシムルコトヲ得ヘキニアラサルカト反問シタルカ大臣ハ之ニ対シ張蔣両人ハ従来ノ行懸リニモ鑑ミ其提携握手スルハ不可能ナリト認メラル差当リニ於テハ蔣介石カ共産分子ヲ撲滅セントスルニ当リ北方派ニ於テ之ヲ妨害セサル程度ノ妥協アレハ十分ナリ之ニ

ヨリテ蔣カ武漢派ヲ圧倒スルコトヲ得ハ彼ノ立場即チ南京政府ノ基礎ハ益々強固ナルヲ得ヘク此時期ニ到ラハ勿論列国ハ南京政府ヲ相手方トシテ案件ノ解決ヲ図ルヲ得ヘク敢テ遠キ将来ニ繋ル統一政府ノ出現ヲ待ツヲ要セサルヘシト答ヘラレタリ

更ニ英国大使ヨリ先日ヨリ御伺ヒ致シタル御意見ハ大部分英国政府ノ方針ト合致スル関係上「チェンバレン」氏ニ於テハ今後支那ヲ相手トスルニ当リ日英両国ノ間ニ一定ノ諒解若クハ協定ヲ遂ケ置キ之ニ基キテ日英共同ニ若クハ共通ノ措置ヲ執ルコトトシ度シトノ希望ヲ有シ居ル処之ニ付テノ閣下ノ御所見如何ト問ヒタルニ大臣ハ斯カル諒解ヲ遂ケ得レハ極メテ結構ナリ但シ相手方ハ支那ニシテ支那ノ事態ハ時々刻々ニ変化シ行キツツアルコトハ忘ルヘカラス故ニ吾々ニ於テモ確立シタル方針ニヨリテ支那ニ臨ムモ其事態変リテ右方針実施ノ由ナキニ至ルコト屢々ナリ故ニ要ハ予メ斯カル諒解ヲ遂ケテ方針ヲ確定スルヨリモ個々ノ問題ノ起ルニ随ヒ日英両国ニ於テ協力ノ精神ヲ以テ腹蔵ナク相談スルコト賢明ナル方策ナルヘシト答ヘラレ英国大使ヨリ然ラハ現ニ速ニ解決ヲ要スル個々ノ問題例ハ租界問題其他所謂条約上ノ特権ヲ如何ナル程度マテ抛棄シテ支那ニ如何ナル程度ノ自由ヲ与フルカ等ノ問題ニ付茲ニ日英両国ノ間ニ話合ヲ遂ケ以テ共通ノ方針ヲ定ムル端緒ヲ開クコト如何ト折返シ尋ネタルカ大臣ハ実ハ多分六月早々ニハ在支本邦代表者及主要領事等ヲ集メ東京ニ於テ会議ヲ催シ其意見ヲモ徴シテ御尋ネノ如キ諸種問題ヲモ審議セシメ以テ政府ノ方針ヲ定メタキ所存ナルヲ以テ其上ニテ英国政府トモ十分意見ノ交換ヲ行ヒ得ヘシト信スト答ヘラレタルカ

英国大使ヨリ然ラハ今直ニ自分ヨリ本国政府ニ請訓シテ前掲諸種ノ問題ニ関スル英国政府ノ意見ヲ徴シ之ヲ閣下ニ呈示シ以テ右日本側会議ノ際同英国政府意見ヲモ併セ考量ヲ仰クコト如何アルヘキヤト問ヒタルニ大臣ハ右ハ至極結構ナリ英国政府ノ意見ハ何時ニテモ拝見シテ考量ヲ加ヘント答ヘラレタリ

尚英国大使ハ蔣介石ノ武漢圧迫運動ハ先ツ蕪湖辺ニ於テ優勢ナルカ如ク漢口ニ於テモ労働者中既ニ武漢政府ニ対シ不平ヲ抱キ其丈ケ蔣ニ対スル同情ヲ増シツツアルカ如キ情報アル処御見込如何トノ問ヒニ対シ大臣ハ武漢政府ノ背景勢力ハ唐生智ナリシ処唐モ寧ロ同政府ト手ヲ切ラント欲シ居ルモノノ如ク河南ノ直魯軍ニ当ルヲ名トシテ漢口ヲ去リタリト言フ故ニ武漢政府ニハ頼リトスヘキ実力ナク為ニ其威令漸次滅ヒツツアルハ事実ナルカ如シト答ヘラレ張作霖及蔣介石ノ代表者東京滞在中ナル趣ノ処閣下之ヲ引見セラレタリヤトノ問ニ対シ大臣ハ張ノ代表者来京中ナリト聞キ居ルモ未タ之ニ会ハス蔣ノ代表者トハ昨日午後会見シタルカ之ニヨリ蔣一派相当真面目ニ其将来ヲ画策シツツアルコトヲ看取シタリ自分ハ蔣並右述ヘタル其代表者共旧知ノ間柄ナルヲ以テ其所言ヲ聞キ親シク彼等ノ真面目サヲ感得シタル次第ナリト答ヘラレタリ

（昭和二年五月十四日沢田電信課長口述速記）

編注　本会議の内容は五月十四日付合第一五六号にて在中国芳沢公使、在英国松井大使に発電された。

718　昭和2年5月(25)日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛（電報）

北伐の最終地点は徐州と蔣介石言明について

上海　発
本省　5月25日後着
第七八一号

南京発本官宛電報

貴官並谷課長一行南京視察ニ関シ南京政府ト打合ノ為本二十二日蔣介石ヲ往訪シタルニ蔣及総参議張群ハ時局ニ関シ大要次ノ如ク語レリ

(一)津浦方面ノ戦事ハ諸事予定ノ通進ミ目下滁州ヨリ蚌埠方面ニ進撃シツツアリ但シ山東軍敗退ノ際鉄道車輛ヲ持去リタルタメ前進ニ支障ヲ来セルモノ鮮カラス依テ滬寧線ヨリ車輛ヲ津浦線ニ移サントシタルニ英国ヨリ右ハ其借款関係上容認シ難シトテ軍艦ヲ下関停車場付近ニ碇泊セシメ右移動ヲ阻止シツツアルヲ以テ現ニ上海交渉員ヲシテ英国ニ交渉セシメツツアリ

(二)南京下流ハ孫伝芳軍ト対峙中ナルカ孫ハ兵力一万二、三千位ナルノミナラス内部ニ種々ノ事情モアレハ歯牙ニ掛クルニ足ラス而シテ之ニ対スル方策ハ過般来浦口ニ渡江セル一部隊ヲ以テ先ツ六合ヲ攻略シ依テ以テ戦ハスシテ揚州方面ヲ略取スルニアル処右渡江部隊ハ一両日中ニ前記六合ヲ占領スル手筈ナリ

(三)武漢方面ニ於ケル夏斗寅楊森等カ最近武漢政府反対ヲ表明セルハ皆当方ノ命令ニ依ルモノナリ

(四)武漢派ハ北伐成功シ北京ニ於テ国民革命軍ト相会スル場合ニハ国民会議ヲ開催シ南京国民政府ト提携スルノ機会アルヘシト思考シ居ルモノノ如キモ武漢派ニ於テ北京進出ノ如キハ到底出来得サルコトナルヘク又当方トシテハ目下最終北伐地点ヲ徐州トナシ居リ従テ武漢派ト北京ニ於テ相会スルカ如キハ考慮ノ要ナシ

ト語リタル後呉佩孚馮玉祥ノ態度行動ニ付頗ル熱心ニ我ニ質問シタルカ右談話中ヨリ得タル印象ハ蔣ハ河南方面ニ於ケル事態ノ進展ニ最モ意ヲ注キ居リ直魯軍並孫伝芳軍ニ対シテハ充分勝算アリト思惟シ居ルモノノ如シ

大臣其他適当転電アリタシ（二十二日午後）

外務大臣、在支公使、青島、済南、天津、奉天、漢口、厦門、汕頭、福州、広東ヘ転電セリ

719　昭和2年5月28日　田中外務大臣より在中国芳沢公使宛（電報）

チェンバレン英国外相のメッセージに対する応答について

付　記一　五月二十七日　英国外相のメッセージ

付　記二　五月二十八日　英国外相のメッセージに関する田中外務大臣とドーマー英国大使館参事官との会見録　本省　5月28日後発

第三〇〇号

貴電第五八五号ニ関シ

在本邦英国大使ハ二十七日「チェンバレン」ノ個人的「メッセージ」トシテ左記要領(一)ノ通リ申入レタルヲ以テ二十八日本大臣ハ左記(二)ノ趣旨応酬セリ

(一)「チェ」ハ北京及天津ニ関シ左ノ事項ニ付田中男ノ所見ヲ承知シ度シ

(イ)蔣、馮、唐ノ三国民軍協力ノ程度並其ノ北京占領ノ可能性ニ付テノ見込如何

(ロ)右北京占領カ平和裡ニ行ハレ公使館区域強力占領ノ危険ナシト思考セラルルヤ

(ハ)南軍戦捷ノ場合ニハ英国政府ハ結局北京天津両地引揚ノ場合ノアラユル準備ヲナスヘキモノト思考スル処日本公使館及日本臣民ノ安全ヲ確保スル為如何ナル方法ヲ考慮セラルルヤ

(二)現在ノ公使館区域守備兵数ヲ以テ同区域攻撃ヲ避ケ且之ニ対抗スルニ十分ナリト思考セラルルヤ

(ホ)団匪事件ノ場合ノ如ク国民軍ノ北京包囲並之ニ対スル救援隊派遣ヲ要スルニ至ルヘキ可能性ヲ考慮セラレタルコトアリヤ

(ヘ)天津ニ於ケル現在ノ各国駐屯軍ヲ以テ同地方ノ保護ヲ確実ニスルニ十分ナリト思考セラルルヤ

(ト)英国政府ハ日本ノ執ラムトスル方針ニ付確知スルヲ得ハ之ニ順応シテ其方策ヲ樹テ一般的不安ヲ生スヘキ躁急ノ引揚ヲ避クルヲ得ヘキモ然ラスンハ同政府ハ自分丈ニテ利用シ得ル力ニテ自国民ノ安全ヲ考慮シ方策ヲ樹ツルノ外ナシ

(チ)「チェ」ハ田中男ノ如何ナル提言ニ対シテモ最モ慎重ナル考慮ヲ払ハムトスルモノニシテ本件ノ如キ実際的且緊切ナル問題ニ付日英両国間ニ於テ協力スルコトハ両国ノ協調ヲ強ク証明シ有効ナル結果ヲ招来スルモノト思考ス

(二)(イ)唐、馮、蔣ノ連絡程度ニ付テハ或ハ其間種々奔走スルモノアルヤノ噂アルモ未タ確乎タル目的ノ下ニ連繋成立セリトハ信セラレス又北京ハ先ツ十中六位迄ハ南軍側ニ依リ占領セラルル可能性アリト見ルヲ得ヘシ尤モ右三者カ相呼応シテ北京ニ同時ニ攻入ルコトハ先ツ無カルヘク蓋シ蔣介石トシテハ北京進出ノ為ニハ予メ武漢共産派ヲ一掃シ長江以南ヲ確実ニ其権下ニ収ムルノ要アリト思考シ居ルモノノ如クナルヲ以テ山東軍ニシテ大打撃ヲ蒙リ潰走スルカ如キコトナキ限リ蔣カ一挙北京ヲ衝クコトハナカルヘク結局馮若クハ唐ノ何レカ先ニ北京ニ入ルニ至ルヘキカト認メラル又目下態度曖昧ナル山西ノ閻錫山ニ於テ北京攻略ノ挙ニ出ツルコトモ頗ルアリ得ヘキコトト思考ス尚張作霖カ従来武断一方ニシテ国民ノ要望ヲ察知セサリシコトハ奉天派ノ最大ノ弱点ナルヲ以テ存外脆ク北京ヲ放棄スルノ止ムヲ得サルニ至ルヤモ計リ難シ

(ロ)北京公使館区域強力占領乃至団匪事件再現ノ危険ナキヤ否ヤニ付テハ支那ニ於ケル出来事ハ何等予断ヲ許ササルコト勿論ナルモ自分ハ南軍側各首領ニ対シ北京攻略ノ際公使館区域ノ尊重及外国人ノ生命財産保護方ニ関シ警告方取計ヒ置キタル次第ニシテ（在上海総領事宛往電第二六七号参照）固ヨリ戦乱ノ際暴徒ノ騒擾ノ虞ナキニ非

ルヘキモ北京カ兵力ヲ以テ攻囲セラルルカ如キコトハ先ツナカルヘシト思考ス

(八)北支方面警備問題ニ関シテハ日本ニ於テモ今後必要ニ応シ同方面ニ約二千ノ兵力ヲ増派スルノ方針ナルコトハ先刻済南派兵ノ件ニ関シ説明ノ際御話シタル通ニシテ既ニ準備ニ着手セシメ居ル次第ナルカ京津地方ヨリ邦人引揚ノコトハ考慮シ居ラス尚自分ハ差当リ右兵力ノ増援ニテ同方面邦人保護ニ十分ナリト認メ居ルモ万一更ニ緊急ノ必要起ル場合ニ対シテハ自カラ自分ニ考アリ

(二)最後ニ本大臣ヨリ在米大使宛往電第二三二号ノ情報ヲ告ケ右ハ張作霖側ヨリ内密ニ入手セル報道ニシテ英国大使ニノミ内話致ス次第ナリト述ヘタル処

以上本大臣談話ノ次第ハ「チェ」外相ニ於テモ必ス之ヲ「アプリシエート」スヘク殊ニ北京方面防備ノ為日本側ニ於テ適当ノ措置ヲ講セラルヘキコトヲ知ルニ於テハ目下英国側ニ於テ焦慮シツツアル北京撤退ノ件ニ付テモ別ニ考慮スルコトモアルヘシト述ヘタリ

天津、奉天ニ転電アレ

編　注　本電は同日在英国松井大使に転電された。

(付　記I)

Sir Austin Chamberlain states that he would be very glad to have Baron Tanaka's views regarding Peking and Tientsin. As he understands the position the three nationalist armies of Chiang, Feng and Tong are advancing northwards towards Peking. What is Baron Tanaka's estimate of the extent of their cooperation, and of their chances of occupying Peking? Does he think that they aim at occupying Peking and if so that the occupation would be carried out peacefully, and without risk of an attempt by force to seige the Legation quarter? In the event of a Southern victory His Majesty's Government consider that all preparations should be made in case both Peking and Tientsin have eventually to be evacuated. The evacuation would be carried out in stages. What measures does Baron Tanaka contemplate to ensure the safety of the Japanese Legation and Japanese subjects. The present Legation guards number about 1000. Does he

think that number sufficient to avert, and to resist an attack should one be made? Has he considered the possibility of a siege by nationalist troops and of a relieving expedition as occurred in the Boxer rising? In the opinion of the British military authorities evacuation is preferable to taking that risk.

As regards Tientsin does he think that the present international garrison (of between 5～6000 men) will suffice to secure its protection?

If His Majesty's Government could be assured as to the course which Japan intends to follow they might be able to adapt their own measures accordingly, and avoid precipitate evacuation, which is found to cause general unsettlement. Otherwise they must be guided by the limited means of defence at their disposal and by considerations of the safety of their own nationals. Sir A. Chamberlain would give most careful consideration to any suggestion which Baron Tanaka might care to offer. He feels that in such a practical and urgent matter cooperation between England and Japan would provide impressive evidence of unison, with beneficial effect.

British Embassy
May 27, 1927.

(欄外記入)五月二十七日ドーマー参事官持参(次官花押)

(付　記II)

大臣会見録　十一

五月二十八日午前田中大臣ノ四国代表者接見終リタル後英国大使館参事官「ドーマー」氏ノミ居残リ大臣トノ間ニ左記ノ如キ談話アリタリ

「ドーマー」氏ヨリ昨日出淵次官迄差上置キタル「チェンバレン」卿ノ電報御覧アリタルヤ右ハ同卿ヨリ若シ近クナラハ閣下ト差向ヒテ話合ヒ度処遠隔ノ地ノ事トテ其意ニ任セス已ムヲ得ス電報シ来リタルモノナリト述ヘタルニ大臣ハ

確ニ之ヲ拝見シタルカ自分モ総理若クハ外相ノ資格ヲ離レ全ク「チェンバレン」氏ノ友人トシテ順次其質問ニ答フヘ

シトテ

第一唐、馮、蔣ノ三国民軍統領間ノ連絡程度如何、又其北京攻略ノ可能性如何ニ付答ヘンニ自分ハ右三者間ニ未タ確固タル目的ノ下ニ連繋成立セリトハ信セス或ハ種々ノ連絡者アリテ三者ノ間ヲ往来シ居ルヤノ噂アルモ之ニ依リテ未タ纒マリタル結果アリトハ思ハス

而シテ北京攻略ノ可能性ニ就テハ先ツ十ノ中六迄ハ占領セラルル可能性アリト見ルヲ得ヘシ固ヨリ今日ノ所ニテハ前掲三者カ相連絡シテ北京ニ攻メ入ルモノトハ思ハス特ニ蔣介石ハ武漢ノ共産派ヲ一掃シテ揚子江以南ヲ確実ニ其ノ掌中ニ収ムル事ヲ以テ北京ニ進出スル準備的行動トナシ居ルカ如クナルヲ以テ張宗昌ノ軍隊ニシテ非常ナル打撃ヲ蒙リテ潰走スル様ノ事ナキ限リ蔣カ一挙直チニ北京ニ赴ク事ハ無カルヘシ唯馮玉祥及唐生智ノ内何レカカ先ニ或ハ寝返リスル事アルヘキ閻錫山カ京漢線ニ沿ヒテ北京ニ攻入ル事ハ最モ有リ得ヘキ事ナリ此点ニ付特ニ注意スヘキハ張作霖従来ノ仕打カ余リニ武断的ニ流レ国民ノ要望ヲ察知セサリシ事ニシテ之ハ奉天派ノ最大ノ弱点ナルヲ以テ存外脆ク北京ヲ投出ササルヘカラサル時代ニ至ルヤモ測ラレス

次ニ北京占領カ平穏ニ行ハレ以テ公使館区域ノ如キ兵力ヲ以テ包囲セラルルカ如キ事無キヤノ問ニ対シテハ「チェンバレン」氏カ英露断交ヲ決行セラレタル今日支那ニ関シ殊更御心配多キコトナラント甚タ同情スル次第ナルカ勿論支那ニ於ケル出来事ハ何等予断ヲ許ササルモ自分トシテハ凡ユル方法ニ依リ南北双方ノ首領ニ対シ北京攻略ノ際公使館区域及外国人ノ生命財産ニ対シ危害ヲ加フル事無キ旨ノ警告転達方ニ付措置ヲ執リタル次第ニシテ先ツ北京カ兵力ヲ以テ攻囲セラルルカ如キ事無カルヘシト考ヘラルト述ヘラレタルニ

「ドーマー」氏ハ南北何レノ軍隊ニセヨ其敗退若クハ進出ノ際正規ノ軍隊ニ依ル危害ハ無之トスルモ暴徒ニ依ル騒擾発生ノ惧無キヤヲ反問シ

大臣ヨリ固ヨリ其虞無キニ非スト答ヘラルルヤ

更ニ「ドーマー」氏ヨリ斯ノ如キ暴動ニ備フル為現在北京ニ於ケル守備兵一千名ヲ以テ公使館区域並ニ外国人ノ安全ヲ確保シ得ラルル御見込ナリヤト問ヒ

大臣ハ之ニ対シ実ハ先刻四国代表者ニ対シ青島ニ派遣シタル二千名ノ兵ヲ済南ニ進出セシメサルヘカラサル事態発生

シタル場合ニハ北支駐屯軍ヲモ増ス積リナル旨話シタルカ差当リニ於テ右増派兵ハ二千名ノ積リニテ満州ヨリ之ヲ派遣スル目的ニテ既ニ其ノ準備ニ着手セシメ居ル次第ナリト答ヘラレ

更ニ「ドーマー」氏ヨリ右ノ御話ニ拠レハ日本政府ニ於テハ北京引揚ノ如キハ考量シ居ラレサル次第ナリヤ而シテ右引揚ケサル日本人保護ノ為二千名ノ増兵ヲ以テ十分ナリト考ヘ居ラルル次第ナリヤヲ尋ネ

大臣ヨリ固ヨリ引揚ケヲ考量シ居ラサル旨並ニ差当リニ於テハ二千名ノ増兵ヲ以テ十分ナリト認メ居ルモ更ニ緊急ノ必要起リタル場合ニハ自ラ自分ニ考有リト答ヘラレ尚満州ヨリ増派兵ヲ関内ニ進ムルニ幾日ヲ要スヘキヤノ「ドーマー」氏ノ問ニ対シテハ大臣ハ先ツ二日ナラハ十分ナルモ急命ヲ発セハ一日半ニテモ十分ナリト答ヘラレタリ

最後ニ大臣ヨリ自分カ張作霖側ヨリ秘密ニ入手シタル情報ニシテ之ヲ貴下ノミニ御話シセンニ安国軍司令部ニ於テハ戦況不利ニシテ若シ徐州ヲモ抛棄セサルヘカラサルカ如キ場合ニハ先ツ徳州ヲ根拠トシテ各方面ヨリ退却スヘキ兵ヲ此処ニ収容シ以テ南軍ノ北進阻止ノ策ヲ講スヘク而シテ張作霖ニ於テハ奉天軍カ右徳州ニ引揚クル時ヲ期シテ奉天ニ帰還スル事トナシ居レリトノ事ナリ

ト語ラレタルニ「ドーマー」氏ハ右御内話ノ次第ハ「チェンバレン」氏ニ於テモ必ス喜フヘク殊ニ北京方面ノ防備ノ為日本側ニ於テ適当ノ措置ヲ講セラルヘキ旨ノ談話ヲ電報スルニ於テハ英政府ニ於テ急キツツアル北京撤退ニ付テモ亦或ハ別ニ考フル事モ有ラント述ヘテ辞去シタリ

（昭和二年五月二十八日、電信課長口述）

720　昭和2年6月(4)日　在ソ連邦田中大使より田中外務大臣宛（電報）

中国の国民運動に対しカラハン同情表明について

モスクワ　発
本　省　6月4日後着

第二八六号

三日「カラハン」ニ会見ノ際先方ヨリ支那問題ニ言及シ最近ノ形勢ヲ問ヒ（多クハ新聞等ニ現ハレ居ル事実）次テ日本ノ山東出兵ニ付本使ヨリ南京事件ノ如キ意外ノ暴挙ヲ見タル以上在留民ノ保護上出兵ハ当然ノ処置ニシテ素ヨリ支

721　昭和2年6月23日　田中外務大臣より在ソ連邦田中大使、在中国芳沢公使宛（電報）

在欧各大使へ暗送セリ

那ノ内政ニ干渉スルカ如キ考ヘナシト述ヘタルニ対シ「カ」ハ出先キノ軍憲ニ其ノ趣旨ノ徹底センコトヲ望ムト云ヒ夫レ以上批評セス語ヲ転シ露国トシテハ支那ノ国民運動ニ同情スルノ立場ヲ変ヘストノ意ヲ述ヘタルニ依リ右ハ概括的ニハ日本モ同様ナリ唯何カ国民運動ニシテ誰人カ最モ好ク之ヲ代表セルヤハ疑問ナリト述ヘタルニ其ハ無論武漢政府ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ貴方ノ考ヘハ始メ広東政府ヨリ出発シタルニ依リ之カ武漢ニ移リタル為武漢政府ニ同情セラルルハ諒解スルモ其後更ニ分裂シ南京政府モ出来又広東ニハ別個ノ政府アルカ如キ此ノ時ニ於テモ猶武漢政府ノミヲ国民運動ノ代表トセラルルハ不可解ナリト評セルニ「カ」ハ前言ヲ翻シ対内的ニハ各党各派間政策上多少ノ異論アルモ之ハ大シタコトニアラス対外的ニハ張作霖ヲ除キ皆一致セル点カ最モ重要視スヘキ処ナリ是南方側カ挙テ北伐ニ合同セル所以ニシテ此ノ事態ニ鑑ミ露国トシテハ張ヲ除ク各派ニ殆ト皆同情ヲ有スト述フ依テ本使ハ然ラハ南方各派ハ張ヲ征服シタル後ハ皆一致シテ支那ノ統一事業ニ当ルモノト考ヘラルルヤト問ヒタルニ否北京ヲ取リタル上ハ彼等ノ間ニ争闘アルヘク支那ハ依然混乱スヘシ故ニ露国トシテハ個人又ハ一派ニ着眼セス国民運動自身ニ同情スルモノナリト述ヘタルニ依リ然ラハ日本ニ於ケル一般ノ考ヘト根本的ニ相違セス唯張ノミヲ個人的ニ敵視セラルルハ矛盾ノ嫌ヒアリ張ト雖対外的ニハ南方側ト同様ノ意見ヲ述ヘ居ルニ非スヤト問ヒタルニ「カ」ハ張ノ云フ処ハ到底信用シ難ク一時ノ方便ヲ弄セルニ過キス若シ楊宇霆カ之ニ替レハ事態ハ改善セラルヘシト述ヘ

次(2)テ南方側カ北京ヲ乗取リ張カ満州ニ退却シタル後日本ハ如何ナル態度ヲ取ラルルヤト聞キタルニ依リ右様ノ事ハ何等承知セサルモ日本カ最嫌フ所ハ満州ヲ戦乱ノ巷トナスコトニアリ日本ハ満州ニ重大ナル関係ヲ有ス之カ戦乱ノ損害ヲ蒙ムルカ如キハ忍フ能ハスト述ヘタルニ「カ」ハ其点ハ尤ナリ併シ実際問題トシテ如何ニシテ張ヲ滅シ得ヘキヤ如何ニ平和的ニ張ヲ除カントスルモ彼ハ日本ノ立場ヲ利用シ動カサルヘク従テ国民運動ノ大障害トシテ残ルヘシ結局武力ヲ以テ之ヲ排除スルハ支那全体ノ為ニ已ムヲ得サル所ナルヘシト述フ依テ本使ハ張ニ武力ヲ加フルコトニ依リ支那ハ簡単ニ和平統一ヲサルルモノナラハ貴見モ尤ナルヘシ然レトモ貴官自身南方ハ北京乗取後互ニ争闘スヘシト云ハレタル如ク支那全体カ依然トシテ擾乱ヲ継続スル以上一度満州ニ於テ戦乱ノ例ヲ開カンカ更ニ第二第三ノ戦争ヲ見ルヘク其度毎ニ日本ハ多大ノ損害ヲ受クヘク斯ル犠牲ハ到底甘受スルヲ得ス従テ日本トシテハ満州ニ於ケル建国者(ママ)ノ変更ヲ見ルトスルモ飽迄平和手段ニ依ランコトヲ欲スルモノニシテ一張作霖ノ存亡ハ必スシモ重要視セス而シテ貴官モ楊宇霆ナラハ善カルヘシト云ハレタル如ク平和的ニ解決スル方法ハ多クアルヘク過去ニ於テモ張作霖以前ノ権力者ハ常ニ平和的ニ更迭シタリト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ今ヨリ国民政府側ト話ヲ付ケラレテハ如何ト問ヒタルニ依リソハ余リニ早計ニシテ将来ニ於ケル南方側各派間争闘ノ可能性ヲ予想セハ益々以テ手ヲ付ケ難シ今ノ処時局ノ推移ヲ見ルノ外ナシ併シ日本カ満州ニ於テ戦乱ヲ欲セサルハ天下公知ノ事実ニシテ南方側モ熟知セル筈ナリ之ニ拘ハラス強テ満州ニ兵ヲ進ムルカ如キコトナカルヘシト思考スト述ヘ置キタリ

日ソ両国の満州に於ける協調に関しソ連邦大使と会談について

本省　6月23日後発

合第一七七号

五月二十四日本大臣在本邦露国大使ト会談ノ際同大使ハ露国カ満州ニ於テ欲スル所ハ東支鉄道ノ商業的経営ニシテ他ニ野心ヲ有セス同鉄道ニ付露支間ニ紛糾生シ惹テ日露ノ紛争ト化スルカ如キコトナクハ日露両国ハ平和裡ニ経済活動ヲ為シ得ヘキヲ信ス満鉄東支両鉄道ニ運賃協定非公式話合円満ニ進ミツツアルカ如キ其ノ一例ナリト述ヘタルカ

右ニ対シ六月十六日本大臣ヨリ大要左ノ通答ヘ置キタリ

(一)此機会ニ於テ日本ハ露国カ現ニ満州ニ於テ有スル正当ナル権利利益ヲ充分尊重スルモノナルコトヲ言明ス世上或ハ種々ノ誤解アルヤモ計リ難キ処日本ハ張作霖ヲ使嗾シテ露国側ヲ圧迫スルカ如キコトハ絶対ニナシ

(二)日本カ満州ニ於テ望ム所ハ同地方ノ治安維持セラレ内外人民カ安ンシテ平和的経済的事業ニ従事シ得ルコトニシテ従テ日露ノ政治的利益カ満州ニ於テ衝突スルコトハアリ得サルモノト思考ス

(三)満州ニ於ケル日露両国民ノ経済上ノ活動ハ原則トシテ門戸開放機会均等ノ主義ニ依ルヘキモノニシテ日露両国ハ所謂勢力範囲ノ如キ旧思想ヲ棄テ共存共栄ノ主義ニ基キ協調スルヲ要スヘク此ノ点ニ付テハ先ツ東支満鉄カ其ノ連絡運輸ニ付円満ニ協定スルコト急務ナリ

尚自分ハ露国領土内ノコトニ政治的ニ何等容喙スルノ意思毛頭ナキハ勿論ナルモ忌憚ナク自分ノ理想ヲ述フレハ西比利亜ニモ経済上機会均等ノ主義認メラルルコトニシテ其ノ場合ニハ日露ノ経済関係ハ完璧トナリ両国共存共栄ノ理想最モ完全ニ達セラルヘシト信スルモノナリ

(在露大使ノ分ニハ「在欧各大使及在米大使ヘ転電アリタシ」ト付記スルコト)

(在支公使宛ノ分ニハ「奉天、哈爾賓ヘ転電アリタシ」ト付記スルコト)

722　昭和2年7月(17)日　在ソ連邦田中大使より田中外務大臣宛(電報)

中国共産党員に対する訓令事項に関する共産インターナショナル執行委員会決定について

モスクワ　発　本　省　7月17日前着

第三五八号

支那ニ於テハ四月蔣介石、李済深ノ一挙後馮玉祥、唐生智亦漸次国民党内ノ共産派ト離レ完全ニ右共産派ノ左右スル所ナリト認メラレタル所ノ武漢政府迄右傾シテ共産派ノ排斥ニ力ムル有様ニテ客年十二月共産「インターナショナル」執行委員会第七回総会ニ於テ同幹部ニ選挙セラレタル譚平山ノ如キモ辞表提出スルノ已ムナキニ至リ「ソ」連邦外交ノ難局ニ一縷ノ光明ヲ与ヘタル支那革命モ漸次「ソ」連邦共産党ノ牛耳ル共産「インターナショナル」ノ統制ヲ失スルニ到ル矢先ニ一個ノ蔣介石反革命ニ走リタリトテ武漢ニ革命政府アリト負荷ミヲ述ヘタリシ当地諸新聞モ最近殆ト支那革命ノ現状ヲ論スルモノノミナリ十四日「プラウダ」ハ支那労働者及農民ノ奮闘ハ共産「インターナショナル」ノ最重要視スル所ナリ支那ノ事件ハ走馬燈ノ如ク変転シ昨日適用シ得ヘカリシコト本日適用スルコト能ハサルヲ以テ臨機応変ノ措置ヲ執ル必要アル処支那共産党幹部ハ共産「インターナショナル」執行委員会ノ再三ノ内訓ニ拘ハラス革命運動ノ民衆化、農民革命ノ深刻化、労働者ノ武装ニ関スル訓令ヲ奉セス最近ニ至リテハ却テ労働者ノ武装解除ニ同意セリ之今回蔣介石ノ決定ヲ以テ支那共産党幹部ノ更迭ヲ支那共産党全員ニ檄スル所以ナリトテ左ノ訓令事項ヲ掲ケタル共産「インターナショナル」執行委員会決定ヲ発表セリ

一、支那共産党員ハ即時武漢政府ヨリ辞職スヘシ

二、右辞職ニ際シテハ其理由トシテ武漢政府カ農民ノ革命運動ニ反対シタルコトヲ発表スヘシ

三、但シ支那共産党員ハ国民党ヲ脱党スヘカラス同党幹部ノ圧迫ニ堪ヘ且ツ党員トノ関係ヲ密ニシ同幹部ノ政策ニ反対ノ決議ヲナサシメ幹部ノ更迭ヲ期スヘシ

四、「プロレタリア」ノ間ニ於ケル活動ヲ盛ニシ労働団体ノ組織ヲ鞏固ナラシムヘシ

五、農民革命ヲ発達セシムルト共ニ労働者、農民及都市ノ貧民ト合同シテ「ブルジョア」民主的革命ヲ達成スル為奮闘ヲ継続スヘシ

六、労働者及農民ヲ武装スヘシ

七、迫害及処刑ニ対抗スル為戦闘部隊ヲ内密ニ組織スヘシ

七、支那共産党員ハ共産「インターナショナル」ノ決議ヲ基礎トシテ団結シ同党中央委員会ノ過失ヲ改メシムヘシ

斯ノ如ク共産「インターナショナル」カ訓令ヲ公開スルニ至リタルハ支那共産党幹部ニ於テ之ヲ報スルモノナキ為之ヲ一般党員ニ檄スルノ外ナカリシト支那革命危険期ニ際シ共産「インターナショナル」カ如何ナル措置ヲ講シツツアルカヲ国民ニ弁明スル為ナラムト思考セラル

尚本年五月十八日ノ共産「インターナショナル」執行委員会決議中支那共産化スヘシ武漢政府ニ参加スヘシ(往電第二八四号)トアルニ今回ノ訓令第一ニハ同党員ハ武漢政府ヨリ辞職スヘシトアリテ其朝令暮改的ナル当国共産党及共産「インターナショナル」部内ノ支那観察ナルモノノ甚タ浅薄ナルコトヲ語ルモノト云ハサルヘカラス

欧米各大使ニ暗送セリ

723　昭和2年10月10日　参謀本部第二部

奉天軍の動向とその対策について

昭和二年十月十日　第二部

支那時局ニ対スル方針

軍事関係事項

（付箋）

一、奉天軍カ京漢線又ハ京綏線方面ニ於ケル主力ノ会戦ニ破レ延テ京津地方混乱ニ陥ルノ兆アル場合ニ於テハ速ニ天津ヨリ一部隊ヲ北京ニ進メ同時ニ不取敢満州ヨリ平時編成ノ混成一旅団（約二千人）ヲ支那駐屯軍ニ増加シ其補充ハ別ニ之ヲ行フコト

隴海線方面山東軍ノ形勢如何ニヨリテハ山東ニ前回同様ノ出兵ヲ必要トスルコトアルヘシ

二、奉天軍カ関外ニ撤退セサルヘカラサル如キ場合ニ於テハ帝国ハ戦禍ノ満蒙ニ波及スルヲ防止スル為奉天軍ノ関外退却ト共ニ平時編成一師団ヲ奉天ニ出シ其一部ヲ錦州、新民ニ配置スルコト

三、前項ノ場合ニ於テ北方ヨリスル露国ノ策動又ハ東三省内部ノ動揺瓦解ノ場合ニ備フル為必要真ニ已ムヲ得スト認ムルトキハ哈爾賓、長春等ニ更ニ一部隊ヲ派遣スルコトアルヘク之カ為メ前第一項満州守備軍ノ補充ト共ニ其兵力ノ増加ヲ必要トスルコトアルヘシ

政策関係事項

四、北京ニ於ケル満蒙問題ノ交渉ヲ促進シ大綱協定ノ完了ヲ急クコト

情況ニヨリテハ細目協定ノ一部又ハ全部ヲ北京ニ於テ一気ニ完了スルコト

五、奉天軍関外ヘ撤退ノ場合ニ於テハ政府ハ機ヲ失セス両軍ニ対シ戦禍ヲ満蒙ニ波及セシメサルコト並帝国自ラ之ヲ防止スルノ必要ヲ認ムルニ於テハ臨機適宜ノ措置ヲ執ルヘキ旨ヲ声明スルコト（此声明ト同時ニ第二項ノ出兵ヲ行フ）

六、奉天軍カ京津地方ヲ保持シタル儘戦闘交綏ノ状態ニ入ルカ如キ適当ノ機会ニ於テ京津地方ノ治安維持ノ見地ニ於テ英国ト協調シ（為シ得レハ列国ト共同シ）両軍ニ対シ和平勧告ヲ行ヒ爾後之ヲ全国ノ和平統一ニ導ク如ク努力スルコト之カ手段トシテ現在京津地方ニ台頭シツツアル段祺瑞一派ノ和平運動ヲ利用スルコトアルヘシ

（付箋）為参考及御送付候

十月十一日　松井石根

724　昭和2年11月14日　出淵外務次官より在中国芳沢公使、在上海矢田、在漢口高尾、在奉天吉田各総領事各宛

田中首相兼外相・蔣介石会談録送付について

拝啓陳者本月五日当時在京中ノ蔣介石田中総理ヲ青山私邸ニ訪問シ会談ノ次第アリタル処右ニ陪席シタル佐藤少将ノ筆記シタル会談録御参考ノ為茲ニ及送付候　敬具

昭和二年十一月十四日

出淵　外務次官

（付属書）

田中総理蔣介石会談録

昭和二年十一月五日午後一時半蔣介石ハ張群ヲ伴ヒ田中総理ヲ青山私邸ニ訪問、会談約二時間ニ及ヒ総理ノ腰越行時刻切迫ノ為已ムヲ得ス会談ヲ打切リ辞去ス

会談ノ要旨左ノ如シ

総理　自分ハ予テ貴下ノ経歴、行動及努力ヲ熟知シアルノミナラス貴下カ堅確ナル意思ヲ以テ事ヲ行ハルルコトニ関シ常ニ敬服シ居ルモノナリ、殊ニ最後ノ下野断行ノ如キ深ク将来ヲ国家ノ為ニ考ヘラレタルモノニシテ寔ニ当ヲ得タル御行動ナリシト思惟シアリ是丈ノコトハ自分ヨリ先以テ申上置、是ヨリ貴下ノ高説ヲ承ハルヘシ

蔣介石　自分ハ学生ノ時代ヨリ革命ニ努力セル関係上孫中山ノ恩顧ヲ蒙ルコト至大ニシテ中山亡キ今日、中山ヲ想フコト切ナルカ同時ニ亦タ閣下ヲ連想思慕セサルコトナシ閣下ノ孫ニ対スル情誼カ深カリシコトハ自分ノ知ル所ナリ、孫ハ自分ノ先輩ナルカ故閣下モ亦タ自分ノ先輩トシテ師事シ隔意ナキ教示ヲ受ケタキ所存ナリ自分ニ於テモ亦進ンテ閣下ニ質問シ度キコトモアリ希望シ度キコトモアレト、御多忙中御迷惑ナルヘキ故自説ヲ差控ヘ先ツ閣下ノ教ヲ乞フコトトシ度シ

総理　今日会見ノ機会ニ於テ別ニ貴下ニ対シ過去ノ事実ヲ御訊ネスル必要ナシ、又昨今ノ情況ニ関シテモ詳細報告ニ接シ居ルヲ以テ特ニ貴下ニ問フヲ要セス、唯タ今後ノ計画ハ如何ニヤ貴下ノ心持ヲ承知シ度シ

蔣介石　従来幾多ノ計画ヲ立テ諸種ノ希望ヲ起セシカ何レモ皆失敗トナレリ、而モ此等ノ計画及希望ハ夫レ夫レ専門家ニ依リテ実施セラレタルニモ拘ラス悉ク失敗トナリタリ将来如何ニ為スヘキヤ願クハ教ヲ聴キ度シ

総理　現在唐生智ニセヨ汪精衛ニセヨ李宗仁、白崇禧、程潜及何応欽ニセヨ大体ニ於テ自己ノ地盤ヲ獲得スルコトニノミ専念シ大局ヲ忘レ居ルヤノ観アリ、之ヲ如何ニ纏メテ行クヘキヤ実ニ難問題ト云フヘシ、現今ノ状態ハ孫

カ袁ヲ倒セル第三革命ヨリモ遙ニ困難ナリト思ハル、孫ハ革命ノ元勲ニシテ国民党ノ創設者タリシカ故何レノ方面ニ対シテモ連絡アリ威望アリ、群雄ハ此人ヲ中心トシテ活躍セシモ今ハ此人ナク各方面トモ分裂ノ状態ニアルカ故革命ノ実行実ニ困難ナリ、此際トシテハ大局上先ツ長江以南ヲ纏メルコト急務ナルヘク之カ為ニハ貴下ヲ措イテ之ヲ実行シ得ル人他ニ存在セス貴下ノ自重ヲ必要トス若シ長江以南ニシテ纏マラサランカ其ノ間ニ共産党ハ成長スヘシ一旦嫩芽ヲ摘マレタル共産党ハ再ヒ芽ヲ吹キ葉ヲ生スヘシ幸ヒニシテ局面ノ収拾ニヨリ大局ヲ制シ得ハ共産党ハ台頭シ得サルモ然ラサレハ此憂大ナリ自分ハ貴下カ南京ニ居ラルル時貴下ノ実力ヲ信シ必ス貴下ノ力ニテ南方一帯ノ局面ハ安定スヘシト考ヘ居レル故、外国トモ話シ合ウテ率先南京ヘ公使（原注）ヲ派遣スルコトヲ計画シ居リ、芳沢公使ヲ南京ヘ立寄ラセタルハ特ニ其ノ意味モアリタルナリ、然ルニ事、希望ト違ヘルハ遺憾ニ不堪、去リナカラ今日トテモ先ツ長江以南ヲ纏メ、基礎ノ確実ナルヲ俟テ始メテ北伐ニ着手スヘキ方策ハ依然最善ノ道ニシテ之ヲ行ヒ得ル人ハ貴下ヲ措イテ他ニナシ、然ラハ如何ニシテ南方ヲ纏ムヘキカ、自分ハ実情ニ通セサル所モアルカ故此事ハ反ツテ貴下自ラ之ヲ知リ居ラルヘシ唯タ参考トシテ申スヘキ事ハ貴下カ余リニ北伐ヲ焦ル事ナク先ツ自己ノ地盤ヲ堅固ニスルニアリ、而シテ北方ニ於ケル張、閻、馮ノ争闘ニ関シテモ貴下トシテハ之ニ手ヲ出サヌ方可ナルヘシ、此ノ争闘ハオノツカラ帰着スル所ニ帰着スヘキカ故放任スルヲ得策ト思フ、又唐生智ノ行動ニ関シテモ成功スルモノトハ考ヘ難シ恐ク久シカラス敗倒ヲ見ルヘシ故ニ貴下トシテハ南方一帯ノ統一ニ専念セラレヨ

列強中貴国ニ最モ利害関係ヲ有スルモノハ日本ナリ、日本ハ貴国ノ内争ニハ一切干渉セサルヘキモ貴国ニ共産党ノ跋扈スルコトハ断シテ傍観シ難シ、此意味ニ於テ反共産主義ノ貴下カ南方ヲ堅ムルコトハ日本トシテ大ニ望ム所ニシテ之カ為、国際関係ノ許ス限リ又日本ノ利権其他ヲ犠牲トセサル限リニ於テ貴下ノ事業ニ対シ充分ノ援助ヲ惜マサルヘシ自分ノ観念ハ第三革命当時ト何等異ルナシ当時ハ孫君ヲ目標トセシカ今ハ孫君ニ代レル蔣君ヲ目標トスルノミ、蓋シ貴下カ先頃下野セル態度ニ関シ自

分ハ前説セル如ク個人トシテ敬服シ居ルモ、実ハ大局上南京政府ノ消滅センコトヲ遺憾ト為スモノナリ、将来貴下ハ馮玉祥ヤ閻錫山ヲアテニスル事ナク独立シテ先ツ南ヲ堅ムルコトヲ計ラレヨ、日本ハ之ニ対シ必ス出来ル丈ノ援助ヲ与フヘシ、貴下ニシテ南方ニ堅固ナル基礎ヲ作ルニ於テハ事必スヤ意ノ如クナルヘシ、目下広東其他南方ノ巨頭連カ統一ナク自己本位ノ行動ヲ取リ居ラルル情況ハ何時迄継続スヘキヤ疑問ナルカ貴下トシテハ黙々之ヲ看視シ只管時機ノ到来ヲ待タルルヲ可トス、決シテ急ク勿レ時機ハ其ノ内ニ来ルヘシ、焦急スルハ貴下ノ為メ大不利ナリ、以上ハ貴下カ折角愚見ヲ求メシ故腹蔵ナク説述セルノミ貴下之ヲ諒セヨ、唯タ茲ニ付言シ度事ハ日本ノ張作霖ニ対スル態度ナリ、世間動モスレハ日本カ張ヲ助クルモノノ如ク称道スルモノアレト全ク事実ニ相違ス、日本ハ絶対ニ張ヲ助ケ居ラス、物質ハ勿論、助言其他一切ノ援助ヲ為シ居ラス、日本ノ願フ所ハ唯々満州ノ治安維持ニアルノミ安心アリ度シ

蔣介石　閣下ノ言ハ支那ノ現状ヲ基礎トシテノ結論故自分トシテモ別ニ他ニ良法ナシト思フ、今ヨリ直チニ北伐ヲ行フ事ヲ不可ナリトスル御高論ニ対シテハ全然同感ナリ、南方ヲ堅メテ而シテ後北方ヲ伐ツヘキコトモ亦同様ナリ、唯タ此道理ヲ知リナカラ曩ニ自分ノ北伐ヲ行ヘルハ当時ノ事情北伐ヲ行ハサレハ禍乱ハ却テ南方ニ起ルヘキ憂ヒアリシカ為メノミ

総理　自分モ爾ク想像シアリタリ

蔣介石　革命軍ノ内容複雑ニシテ将士敵ヲ軽ンスルノ風アリ、当時若シ北伐ヲ行ハレサレハ分裂ヲ免レ難キ形勢ニアリタリ、実ヲ言ヘハ広東ヨリ出征ノ際ハ兵力僅ニ二師団ニ過キサリシカ江南ニ着セシトキハ其ノ数二十師団以上ニ達シ、内容複雑、敵アレハ結束シ敵ナケレハ分裂セントシ、統御ノ苦心一方ナラサリシモノアリシナリ

総理　自分モ其事ヲ想像シ居レリ、就テハ今後貴下カ如何ナル時機ニ出山スヘキヤヲ考フルニ孫伝芳カ江南窺窬ノ行動ヲ繰リ返ス時ニアルヘシト愚考ス、孫君トシテハ最早図南ノ志ヲ絶ツヘク、之ヲ行ヘハ必ス失敗ニ終ル事ナシト恐ラク再度此挙ニ出ツヘシ而シテ其時機ハ即チ貴下ノ捕捉スヘキ機会ナラン

蔣介石　自分ハ共産党カ跋扈セハ起ツヘシ、然ラサレハ縦

令孫カ南下シ来ルモ起タヌ決心ナリ

総理　貴下ト孫トノ間ニ何等カノ約束アリヤ

蔣介石　何等約束ナシ、唯タ孫若シ江ヲ渡レハ必ス失敗スヘキノミ

総理　或ハ然ラン、判断ハ人ニヨリテ異ル兎ニ角貴下自国ノ事故貴下良ク之ヲ知ルヘキモ凡ソ人トシテ事ヲ成スニ他人ノ失敗スルトキハ即チ自己ノ成功スルトキナル事ヲ想ハサル可ラス、共産党ノ跋扈ハ李宗仁程潜等ノ活動ニ因ラスシテ或ハ土匪的跳梁トナリテ現ハルルヤモ知レス、汪兆銘ノ態度如何ハ知ラサルモ誰人ト雖モ今日共産党ヲ標榜シテ行動スルモノハナカルヘシ共産党ハ恐ラク土匪ヲ利用スルコトトナルヘシ

蔣介石　貴説ノ如クナランモ共産党カ軍隊内ニナシトハ限ラサル故注意ヲ要ス、指揮官ハ別ニ怖ルルニ足ラサルモ軍隊内ニ共産主義者ノ侵入スルコトハ寒心ニ堪エサルナリ

総理　自分ニ於テモ其事ハ同憂ナリ、日本ニ於ケル共産主義ノ蔓延ハ其ノ原因支那共産党ノ増長ニアリ、日本側ヨリ、貴国ノ赤化ヲ常ニ八釜シク反対シ居ルハ畢竟自衛ノ為ニ外ナラス又我等カ蔣君ニ同情ヲ表シ居ルモ之カ為メナリ、若シ貴下ニシテ共産党ノ同情者タランカ我等ハ貴下ヲ信頼セサルナリ、貴下ノ共産観ハ自分ノ夫レト同様ナリト確信シアリ

蔣介石　先刻閣下ハ自分ニ対シ孫伝芳渡江ノ時機ハ即チ自分ノ起ツヘキ時機ナリト教ヘラレ自分ハ起ツヘキ意思ナシト御答ヘセシカ今ノ支那ノ状勢ハ混乱紛糾ヲ極メ国家モ危険ナレハ列強モ不安ナリ、個人トシテハ起ツヘキ時機ニ非サルモ支那ノ国民トシテハ実ニ傍観ヲ忍ヒ難キ事情ニアリ、応ニ奮起シテ革命ヲ成就シ統一ヲ遂クヘキ義務アリト思考ス、元来日本ヘ渡航ノ当時ハ日本ヲ経テ欧米各国ヲ廻リ五年ノ日子ヲ海外ニ費ス予定ナリシモ渡日以来一個月、貴国各方面ノ人士ト接触シタル結果、本国ノ時局ヲ空シク海外ニ傍観スルコトハ事実上不可能トナレリ仍テ自分個人ノ考ヘヲ述ヘ閣下ノ御教示ヲ承リタル上帰国スルコトニ決心セリ

併シ帰国シタリトテ直ニ起ツヘキ考ヘハナシ、就テハ茲ニ一ツ秘密ノ事アリ、汪兆銘ヨリ自分ニ対シ早ク帰国シテ国民革命ノ総司令ニ就職セヨトノ電報来リタルコトナリ、自分ハ之ニ応スル意思ナク帰国シテモ暫クハ動カサル考ナリ、今日初見ノ閣下ニ対シ如此事ヲ漏スハ閣下ヲ長時日相識ル先輩ト思フカ故何等包ミ隠ス所ナク自説ヲ述ヘテ閣下ノ教ヲ乞ハンカ為メナリ、総理ノ前言中日本ノ利権ヲ犠牲ニスルヲ得ストノコトアリシカ自分モ支那ニ於ケル日本ノ利益安全ナレハ支那ノ国利民福モ亦タ安全ニシテ畢竟両国ノ利害ハ共通ナリト信スルモノナリ、之カ為ニハ早ク革命ヲ成就シ時局ヲ安定セシメサルヘカラス、此意味ニ於テ支那軍隊ノ革命運動ハ支那及列強ノ利益ヲ目的トスルモノナリ、革命ノ完成ヲ一日モ早ク実行セントスルハ自分及同志ノ考ヘナリ、支那ニ排日ノ行ハルルハ日本カ張作霖ヲ助ケ居ルモノト思ヘハナリ、自分ハ判然日本ノ態度ヲ諒解シ居ルモ、軍閥ヲ嫌忌スル支那ノ国民ハ軍閥カ日本ニ依頼シ居ルモノト誤解シアリ、故ニ日本ハ吾人同志ヲ助ケテ革命ヲ早ク完成セシメ国民ノ誤解ヲ一掃スル事必要ナリ、而シテ事如此ナルニ於テハ満蒙問題モ容易ニ解決セラレ排日ハ跡ヲ絶ツヘシ、若シ夫レ列強ニ対スル関係上日本カ支那ニ何等ノ援助ヲモ做シ得スト言フカ如キハ日支ノ特殊関係ヲ没却セル言議ニシテ取ルニ足ラス今ヤ支那ト交渉アル列強ハ数多キモ其ノ真ニ緊切ナル利害ヲ有スルモノハ日露ノ両国ニ過キス露国ハ此ノ意義ノ下ニ支那ニ干渉ヲ加ヘタリ、日本何ンソ干渉援助ヲ加ヘ得サルノ理アランヤ、革命党タル自分カ如此言ヲ做セハ売国奴トシテ国人ノ怨怒ヲ招クヘキモ閣下ハ自分カ信頼スル先輩ナルカ故、衷情ヲ披瀝シ閣下ニ訴フルニ過キサルノミ

（総理ノ腰越行ハ午後三時東京駅発ト定メラレアリシカ会談中時刻経過ノ為、午後三時四十一分発ニ延期セラレタリ、然ルニ談茲ニ及ヒ既ニ午後三時二十五分トナレリ）

総理　貴下ノ腹蔵ナキ心底ヲ聴キ自分ハ尚ホ大ヒニ語リ度キコトアルモ如何セン出発時刻迫リ、タトヘ更ニ出発ヲ延スモ本日ハ語リ尽シ得サルヘシト考フルヲ以テ他日ヲ期スルコトトスヘシ是非御滞在中更ニ今一回会合懇談シ度シ

蔣介石　万一自分カ東京ヲ去ルコトトナルモ張群ハ当分東京ニ残留スヘキ故、閣下ノ御意見ハ張群ヘ直接若ハ佐藤少将ヲ経テ御示シアリ度シ

以上

佐藤安之助　陪席及筆記

注　田中総理ノ注意ニ依リ「公使」ヲ「外交官」ト訂正シ其ノ旨亜細亜局長ヨリ半公信ヲ以テ本信送付先ヘ通知済（2・11・17）

725

昭和2年12月15日　在中国芳沢公使より田中外務大臣宛

中国問題対策に関する堀・マイヤー米参事官会談について

機密第一二七七号　（12月24日接受）

昭和二年十二月十五日

在支那

特命全権公使　芳沢　謙吉（印）

外務大臣男爵　田中　義一殿

堀「マイヤー」会談ニ関シ報告ノ件

本月十三日堀米国公使館参事官「マイヤー」ト会見シタルカ其ノ節堀ヨリ「マクマレー」公使ハ支那時局ニ関シ何等国務省ノ新方針ニテモ齎ラシ帰ラレタルヤト訊ネタル所「マイヤー」ハ這般公使帰米シテ親シク国務省ノ意見ヲ叩キタル処支那ノ現状カ極メテ悪化シ居ルノ事実ヲ何等ノ「イリューヂォン」無ク明瞭ニ理解シ居ルヲ知リテ甚タ満足セリトノコトナリ只目下大統領選挙ヲ控ヘテ米国ノ輿論ハ支那時局ニ対シ一両年前程ノ興味ヲ示ササルニ依リ国務省トシテハ前述ノ如ク支那カ日々悪化シ行クノ事実ハ之ヲ知悉スルモ今俄ニ支那ニ関シ建設的政策ヲ樹立シテ之カ実行ニ着手スルノ時期ニ達セスト思考シ居ルモノノ如シ米国ノ輿論ハ自国ノ国情カ自足自立ニシテ非常ノ理由アルニ非サレハ外国ノ問題ニ関与シテ他人ノ為ニ火中ノ栗ヲ拾フ役目ヲ務メシメラルルヲ愚ナリト固信シ居リ是レ即チ世界戦ニ於テ幾多ノ非難ヲ浴ヒツツ殆ント最後ニ至リ漸ク参戦シタル次第ナリ従テ例ヘハ

㈠支那カ華府決議ヲ無視シテ今ヤ将ニ郵政制度ヲ破壊セムトスルニ当リ米国ハ華府会議主催国トシテ当然責任ヲ感スヘキ地位ニ在リ乍ラ右ニ関シ差当リ何等確定的措置ヲ執リ得サルヘシ

㈡又不法課税対抗策殊ニ目下日米実業家間ニ私的協議中ナル上海不当課税ニ付テモ米国政府カ積極的態度ヲ執リ得ルヤ否ヤ疑ハシ本件ニ関シテハ貴官ヨリ御話アリタル趣ヲ以テ「アーノルド」（米国公使館商務官）ヨリ聞及ヒ

居ルモ若シ日本カ煙酒税ノ例ニ倣ヒ一般貨物中ノ或物ニ付正税ノ領事館供託ヲ実行スルニ於テハ米国実業家モ躍起運動ヲ起スヘキモ其ノ結果米国政府カ自国領事館ヲシテ正税供託ヲ開始セシムルヤ否ヤハ疑問ナリ何トナレハ煙酒付加税ノ場合ハ五割三割ト云フ法外ナル高率ナリシ為嫌々ナカラ供託ヲ実行シタル次第ニシテ華府付加税ニ付テモ日本ノ措置ニ倣フヤ否ヤハ保証ノ限リニ在ラス

㈢将又最近五国公使ノ間ニ問題ト成リ居ル海賊掃蕩案ニ付テモ仮令巡邏ヲ「バイアス、ベー」ニ限定スルトシテモ米国ハ結局之ニ参加セサルコトトナリ之ニ関シテハ何レ一両日中ニ「マクマレー」公使ヨリ芳沢公使ニ御話スル所アルヘシ

㈣支那ノ満期通商条約廃棄ニ対スル列国公使ノ共同電稟案モ之ニ基キ米国政府カ何等有効ナル列国間ノ共同措置ニ参加スヘシトハ想像出来ス

要之結局支那ノ政治状態悪化ノ程度未タ米国一般輿論ヲ喚起スルニ到ラスト云フニ帰着スヘシ自分一個ノ考トシテハ支那ヲ此儘放任スルニ於テハ早ケレハ茲二三年遅クトモ数年ノ中ニハ支那モ列国モ共ニ非常ナル窮境ニ陥ルヘク米国ノ輿論ハ初メテ声ヲ揃ヘテ対支積極策ヲ高調スルニ至ルヘシト答ヘタル趣ナリ（以上ハ「マイヤー」カ自己ノ私見ナリト断リツツ述ヘタル処ナルモ回答前後ノ関係等ヨリ推シテ「マクマレー」公使カ齎ラセル国務省最近ノ対支態度ヲ反映セルモノノ如シ元来「マイヤー」ハ堀ニ対シ常ニ積極論ヲ述ヘ堀カ消極論ノ水ヲ掛ケタル程ナルニ今回ハ上述ノ如ク消極論ヲ持出シタル由ナリ）

最後ニ堀ヨリ無線問題モ久シキ懸案ナリシモドウヤラ解決ニ近付キタルカ如ク之カ解決サヘ見ルニ於テハ御互支那ノ出先ニ居ル吾々トシテハ何等係争問題無クナリテ至極結構ナル次第ナリトロヲ切リタル処「マイヤー」ハ余リ気ノ無キ様子ニテ実ハ本件ハ「ヂャック」（「マクマレー」ヲ指ス）ト「ペック」（前漢文参賛）ノ取扱ヒ来レル処ニシテ自分ハ良ク承知セサルモ今回東京ニ於テ「マクマレー」公使ト出淵次官ノ間ニ談合ノ次第アリ自分モ出淵次官ノ提案ニ「マクマレー」公使カ加筆セルモノヲ一見シタルカ本件解決ニ至ル迄ニハ猶種々曲折アルコトト考フ些ク共米国トシテハ北方ト或協定ニ達スルモ上海無台（ママ）建設ニ付テハ南方ト折衝スルノ要アルヘシ然ルニ今日ノ支那ニ於テハ如何ナ

ル問題ニテモ支那側ノ承諾ヲ取付クルコト極メテ困難ナルハ御承知ノ通ナリト答ヘタルニ依リ堀ヨリ重ネテ支那ハ暫ク別トシテ日米間ニハ大体ノ主義ニ付意見ノ合致ヲ見タルニ非スヤト突込ミタル処「マイヤー」ハ言ヲ濁ラシテ明答ヲ避ケタル趣ナリ堀ハ右回答ニ依リ本件ニ付日米間ノ意見合致セリトテ未タ遽ニ安心ナリ難シトノ印象ヲ得タル趣ナリ右何等御参考迄報告申進ス

726　昭和2年12月19日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛

国民政府の対ソ連邦断交の経緯について

付記　広東共産軍事件並びにソ連邦領事引揚問題（十二月二十六日調）

諜報機密第一一一八号　（昭和3年1月4日接受）

昭和二年十二月十九日

在上海

総領事　矢田　七太郎（印）

外務大臣男爵　田中　義一殿

国民政府ノ対露断交通告ニ関スル件

標記ノ件ニ関シテハ本月十五日付往電一三七〇号ヲ以テ及報告置キタルカ其ノ顚末左記ノ通リニ付報告ス

左記

一、事実

国民政府ハ去ル十四日外交部長伍朝枢ヲシテ其ノ治下ニ駐劄スルソヴイエト社会主義連邦共和国領事ノ承認ヲ取消シ有ラユルソヴイエト国営商業機関ニ対シ其ノ営業ヲ停止セシムル旨ノ訓令ヲ発セシメタリ当地交渉署長郭泰祺ハ右訓令ニ基キ去ル十五日午後労農総領事ヲ訪問シ左記訳文ノ通リ通告文ヲ交手シタリ

訳文

拝啓陳者国民政府外交部ノ訓令ニ拠レハ本月十四日国民政府ヨリ「本政府統治下各省ノソヴイエト露国領事館及其ノ国営商業機関ハ常ニ赤化宣伝、共産党蔵匿ノ機関トナレリ本政府ハ屢次此ノ報告ニ接シ夙ニ聞知スル所アリタルモ徒ニ邦交ヲ顧念シ未タ深ク追究セサリシ処本月十一日広東事変突発シ共産党ハ省城ヲ占領シ交通ヲ断絶シ全市ヲ焼掠シ恣ニ殺戮ヲ行ヘリ其ノ原因ヲ究ムルニ悉ク共産党カソヴイエト露国領事館及其ノ国営商業機関ニ藉リテ之ヲ其ノ発令指示ノ地タラシメタルニ因リ遂ニ劇変ヲ醸成セルモノニシテ其勢燎原ノ火ノ如ク其他ノ各省ニ於テモ亦暴動発生ノ虞ナシトセス本政府ハ是レ以上容認スルトキハ党国ニ無窮ノ禍ヲ貽スモノト認メ治安維持、騒擾ノ蔓延予防ノ為メ各省駐在ノソヴイエト社会主義連邦共和国領事ノ承認ヲ一律ニ取消シ有ラユル各省ノソヴイエト露国ノ国営商業機関ニ対シ其ノ営業ヲ停止セシム然ラハ始メテ乱源ヲ杜キ徹底的究明ニ便ナラシムルヲ得ヘシ茲ニ外交部ニ命シ所属ヲ督率シ並ニ主管機関ト会同シ妥当ニ慎重ニ弁理報告セシム」トノ旨命令アリタル趣ヲ以テ右命令全文至急照会方下命有之候

依テ本特派交渉員ハ茲ニ右訓令ニ遵ヒ即日貴総領事及有ラユル館員ニ対シ一律ニ其ノ承認ヲ取消スヘキコトヲ声明ス尚護照ハ別途最短期間内ニ送付スヘキニ付貴総領事及領事館員ハ至急離滬相成度此段照会旁々得貴意候

敬具

国民政府命令英訳文一通添付ス（編注）

中華民国十六年十二月十五日

郭　泰　祺

二、労農側ノ態度

国民政府ヨリノ退去要求ヲ受ケタル労農側ハ同夜同総領事館内ニ関係者ヲ招集シ商議ヲ重ネタル結果一先引揚クルコトニ決シタルモノノ如ク十九日労農総領事ハ左記二十八名ニ対スル本邦通過査証方ヲ当総領事館ニ懇請シ来リタルカ当総領事館ニ於テハ漢口ヨリ引揚ケ来ル可キ同地駐在領事館員其ノ他約十七名ニ対スル査証ノ件ニ関シ訓令ノ次第モアリタルニ付浦塩ヘ直行方ヲ勧告セルモ労農側ニテハ同船ハ貨物船ナレハ多人数ノ乗船不可能ナル旨ヲ陳述シ本邦経由ヲ懇請シテ止マサルニ依リ本省ニ対シ何分ノ指揮ヲ請訓中ナリ

三、他地方労農領事館ノ状況

1、駐広東労農総領事館ハ十三日張発奎軍ノ為メ占領セラレ総領事ヲ始メ其他ノ露国人家族十数名ハ拘禁中ナルカ張発奎軍カ同館ニ踏ミ込ミタル際ハ館員ハ書類ヲ焼棄シツツアリシモソノ大半ハ没収セラレタルカ如ク該書類中ニハ共産党暴動計画ノ関係書類多数発見セラレタル由ニテ張発奎ハ露国領事ニ対シ相当ノ処置ヲ執ルヘシト談リ居ル由尚目下軍警協力シテ共産員（ママ）ノ捜査ニ努メツツアルカ今日マテ銃殺セラレタルモノ千名ニ

上リ内公安局ニ在リタル露国人九名ヲモ銃殺シタリト

2、漢口労農総領事以下十二名ハ交渉署ニ監禁中ニテ二十四時間内ニ立退ヲ命セラレタルカ一昨十七日早朝同地出帆ノ三北公司所有船福隆号ニテ上海ニ向ケ下江ノ途ニ就キタル趣ナルカ出発前交渉署ヨリ労農吏員ハ日本経由帰国ノ外途ナキヲ以テ通過査証ヲ与ヘラレ度キ旨ヲ我方総領事ニ懇請シタルモ同総領事ハ上海到着後何分ノ方法ヲ講スル方可然トテ拒絶シタル由ナリ

四、当地労農ゲ、ペ、ウ勤務者ノ言動

本事件発生後ニ於ケル当地ゲ、ペ、ウ勤務者ハ仏租界(ママ)(欠)路三三号「ツエントロソユーズ」員「ワツクスマン」方ニ集合数次会議ヲ催シタル模様ナルカ総領事館退去後モ依然トシテ当地ニ残留シ勤務者数ヲ増加シ活動範囲ヲ拡大スルコトニ申合セヲナシタル模様ニテ屢報ノ「イワーノフ」ノ如キモ近ク仏租界ニ移転スルヤノ口(吻カ)(欠)ヲ洩シタリトノ聞込アリ彼等ノ動静ニ付キテハ注意中ナリ

五、領事団ノ態度

十五日午後米国総領事ハ同日呉科長ノ訪問ヲ受ケ露国官憲退去要求ニ関スル公文ヲ受領シタルニ付キ其ノ措置方ニ付キ相談シタシト申出タルニ依リ十六日午前日、英、米、仏四国総領事会合シ討議ノ上左ノ三項ヲ決定セリ

㈠右通告文ヲ工部局ニ移牒シ労農吏員及家族ノ引上ニ対シ充分ノ保護ヲ与フルコト

㈡「ダリバンク」其他国営通商機関ハ他トノ取引関係アルニ付キ引上後ノ事務ニ適当ノ方法ヲ考慮スルコト

㈢引揚迄テ露国領事館周囲ニ支那側ヨリノ見張人ヲ派シ出入支那人並ニ書類搬出ヲ監視セシメ度シトノ交渉員ノ申込ヲ黙認スルコト

㈣主席公使ニ対シ主席領事ハ顚末ヲ電報スルコト

尚支那側ニ於テハ来ル二十一日出帆スル露国汽船アル場合該汽船テ赤露人ヲ引揚シムル方針ナル由ナリ又仏国総領事ノ談ニ依レハ十六日朝来支那街ヨリ仏国租界内ニ逃避スル支那人陸続タリト

而シテ右決議ニ基キ工部局及中国官憲ハ労農領事館及通商機関ニ警察官ヲ派遣シ警戒ニ当ラシムルト同時ニ出入者ノ身体捜検ヲ実施シツツアリ

本信写送付先　在支公使　漢口　広東

編　注　英訳文の添付なし。

(付　記)　(昭和二年十二月二十六日調)

広東共産軍事件並ニ労農露国領事引揚問題

昭和二年十二月十一日午前一時頃広東市外ヨリ侵入セル農団軍ハ市内ノ工人並軍隊ノ一部ノ策応ヲ得テ公安局ヲ襲ヒ之ヲ占領シ引続キ市内ニ於テ巡警隊ト交戦シ且各所ニ火災ヲ起ス等至ル所ニ混乱ヲ生セシメタルカ同日午後ニ至リ広東ノ実権ヲ握リ居リタル張発奎側軍隊ヲ駆逐シ広東市ノ大部ヲ占領ノ上一時同地ニ共産党政府ヲ組織セルモ張側軍隊ハ応援軍ヲ得テ鋭意頽勢挽回ニ努メタル結果十三日午後ニ至リ市内ハ殆ント右張軍ノ手ニ奪回セラレタリ尚張側軍隊カ十三日公安局ヲ奪回セル際同局ヨリ露国人九名ヲ逮捕シ何レモ之ヲ銃殺シ(其際露国副領事モ銃殺セラレタル趣ナリ)其他多数共産党員ヲ銃殺シタルカ露国総領事初メ其他ノ露人家族ハ十数名目下拘禁中ナル趣ナリ

国民政府側ニ於テハ右広東事件ヲ切掛ニ現在各地ノ露国領事館ハ共産党ノ政治機関トナリタルモノナリトシテ十二月十五日在上海露国総領事ニ対シ国民政府ハ即日同政府管下ノ各地赤露領事館及国営商業機関ノ承認ヲ取消シ駐在官公吏ニ対シ出境護照ヲ交付スヘキニ付最短期間ニ於テ引揚クヘキ旨ノ通告文ヲ交付セリ

十二月十六日朝在上海日、英、米、仏四国総領事会合シ前記国民政府通告文ニ対スル措置ニ関シ協議ノ結果上海工部局ニ対シ赤露官公吏及家族ノ引揚ニ対シ充分ノ保護ヲ与フヘキ事ヲ命シタリ

帝国政府ニ於テハ今次広東ニ於ケル共産党ノ暴動ノ如キ事柄カ他地方ニモ繰返サルルカ如キ状勢トナルコトハ憂慮ニ堪ヘサル処ナルモ国民政府カ露国領事及通商機関ノ職権ヲ停止スルノ措置ニ出テムトシツツアル以上我方トシテハ彼等ノ措置ニ一任シ何等之ニ関係セサルコトトシ十二月十六日在上海矢田総領事ニ対シ右ノ趣旨電訓ノ次第アリタリ

漢口ニ於テハ十二月十六日午前五時約一千名ノ衛戍司令部ノ軍隊ハ露国総領事館ヲ取囲ミ館内ヲ捜索シ其際総領事以下拉致セラレタルモノノ如ク又仏租界ニ於テモ十六日早朝支那便衣隊ハ予テ多数共産党員ノ隠家ト見做サレタル同租界内ニ侵入シ無断ニテ数十名ノ支那及露国共産党員ヲ逮捕シタル趣ナリ尚支那側ニ於テハ露国総領事以下十二名ヲ其後交渉署ニ監禁シ二十四時間内ニ立退ヲ要求シタルカ十七

日早朝総領事一行十六名ハ漢口出発上海ニ向ヒ二十一日同地出帆ノ長崎丸ニテ本邦通過帰国ノ途ニ就ケリ

尚上海露国総領事館員一行二十二名ハ二十日出帆ノ和蘭船（神戸横浜ニ寄港）ニテ浦潮ヘ向ヒ同総領事一行ハ館務整理ノ上二十四日露国商船艦隊ニテ浦潮ヘ直航セリ

727　昭和2年12月22日　在上海矢田総領事より田中外務大臣宛

ソ連邦領事館員の中国退去について

諜報機密第一一三五号　（昭和3年1月9日接受）

昭和二年十二月二十二日

在上海

総領事　矢田　七太郎（印）

外務大臣男爵　田中　義一殿

労農領事館員退支ニ関スル件

国民政府治下ニ在ル労農領事館撤退ニ関シテハ本月十九日付諜報機密第一一一八号ヲ以テ報告置キタル処駐上海労農総領事以下少数ノ幹部ハ建物ノ処理並ニ事務整理ノ為メ二十四日迄テ猶予ヲ許可セラレタル趣ニテ最初本邦経由浦塩ニ向ヒ度キ希望ナリシヲ変更シ一部ヲ去ル二十日和蘭汽船ゾスマ号ニテ出発セシメ残留者ハ二十四日出帆ノ労農商船艦隊汽船西山号ニテ浦塩ヘ直行スルコトトナリタリ亦在漢口労農総領事以下十七名ハ三北公司所有船福隆号ニテ支那軍警ニ押送セラレ二十日午後二時着滬セルカ同夜八時頃駐上海労農総領事ヨリ彼等ヲ本邦経由浦塩ニ向ハシメ度シトテ査証方ヲ依頼シ来リタルニ依リ当総領事館ニ於テハ事情罷ムヲ得サルモノト認メ査証ヲ与ヘタルカ査証ニ貼付ス可キ写真ノ撮影ノ暇ナキ為メ写真ヲ貼付セス一行ハ二十一日午前九時発ノ長崎丸ニテ神戸ニ向ヒタルニ依リ右ノ旨該船乗組ノ長崎県査証官ニ引継キ置キタリ在漢口総領事「プリッチェ」ハ当館諜報係ニ対シ余等一行ハ二十四日敦賀発ノ敦浦連絡船ニテ浦塩ニ向ヒ度キモ若シ間ニ合ハサレハ敦賀ニ於テ次便ヲ待ツ外ナシ漢口ニ於テハ言外ノ侮辱ト辛酸ヲ嘗メタルカ日本政府ノ好意ニ依リ日本経由スルヲ得タルハ感謝ニ不堪ト談リタリ

ゾスマ号並ニ長崎丸ニテ退去セルモノノ氏名別紙（省略）ノ如シ尚労農国営商業機関ハ悉ク営業ヲ停止セシメラレ居ルモ当地臨時法院ハ精算ニ付キテハ相当ノ便宜供与ヲ命令シ工部局警察ニ対シ警察監視ノ下ニ右命令ノ実行方並ニ雇人以外ノ者ノ当該機関ヘノ出入禁止方ヲ命シタリ

尚ホ在上海労農総領事ハ莫斯科政府ニ対シ毎日電報ヲ発シ居レルモ最近三四日更ニ莫斯科ヨリ電報来タラサルニ付同領事館員出発等ノ件ノ転電方ヲ当総領事館ニ依頼シ来レリ

右報告ス

本信写送付先　在支公使、漢口、広東